

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

# SOCCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



# vol. 99

2021年10月29日発行



**公益社団法人 栃木県サッカー協会創立75周年記念  
兼 新スタジアム (カンセキスタジアムとちぎ) こけら落とし**

**サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」国際親善試合**

**MS&ADカップ2021**

**なでしこジャパン VS メキシコ代表**

2021年6月13日 カンセキスタジアムとちぎ

写真提供 / 下野新聞社 ほか

FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう



# contents

<b>事務局より</b>	
2021年度 役員 .....	3
NEZASカップ第26回県サッカー選手権大会 .....	4
第101回天皇杯全日本選手権 .....	4
「なでしこジャパン」国際親善試合開催 .....	5
第76回国民体育大会サッカー競技関東ブロック大会 .....	6
<b>栃木サッカークラブ</b>	
「コロナ禍の中でも前に歩み続ける」 .....	7
<b>第1種委員会・社会人連盟</b>	
天皇杯を終えて・栃木シティフットボールクラブ .....	7
第57回全国社会人サッカー選手権大会関東予選に出場して・FC CASA FORTUNA OYAMA .....	8
第57回全国社会人サッカー選手権大会関東予選に出場して・ヴェルフェ矢板 .....	9
第28回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会を終えて・スポルトかわち .....	9
第76回（2021年）国民体育大会関東ブロック大会（成年男子） .....	10
<b>第2種委員会・高校連盟</b>	
高校連盟より .....	11
栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会兼 第64回関東高校サッカー大会県予選会 結果 .....	13
第64回関東高校サッカー大会に出場して・栃木県立真岡高等学校サッカー部 .....	14
第64回関東高校サッカー大会に出場して・佐野日本大学高等学校サッカー部 .....	15
高円宮杯U-18サッカーリーグ2021 ユースリーグ .....	16
全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会 結果 .....	19
第100回全国高等学校サッカー選手権大会栃木大会 組合せ .....	20
国体少年男子／栃木県トレセンU16 活動報告 .....	21
<b>第4種委員会・少年連盟</b>	
第7回QUALIER CUP栃木県U-12サッカー大会 .....	22
JFAバーモントカップ第31回全日本U-12フットサル選手権大会栃木県大会 .....	23
『tonan』第10回北関東（関東外環）U-12サッカー大会 in GUNMA .....	23
<b>女子委員会・連盟</b>	
9月開幕のWEリーグ 本県関係8選手が参戦 .....	24
<b>クラブユース</b>	
第36回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県予選 .....	25
<b>シニア委員会・連盟</b>	
2021年度 JFA第9回全日本O-40サッカー大会関東地区予選会 結果 .....	26
2021年度 JFA第20回O-50サッカー大会関東予選大会 結果 .....	27
2021年度 JFA第20回O-60サッカー大会関東予選大会 結果 .....	28
<b>フットサル委員会・連盟</b>	
全日本女子フットサル栃木大会 13年ぶり「地元関東」懸け熱戦 .....	29
新型コロナ禍で2シーズン目 公式戦は進行中 .....	30
<b>グラスルーツ委員会</b>	
グラスルーツ委員会より委員長挨拶 .....	30
2021年グラスルーツ委員会キッズ部会発足 .....	30
グラスルーツ委員会女子部会より .....	31
<b>技術強化委員会</b>	
国体女子関東ブロック大会結果及び活動報告 .....	33
2020年B級指導者講習会栃木FAコースを開催して .....	39
<b>審判委員会</b>	
宇都宮社会人サッカー審判委員会について .....	43
コロナ禍における大会開催の難しさ～全国高等学校総合体育大会サッカー競技に参加して～ .....	44
全国中学校サッカー大会に参加して .....	45
2級審判員として .....	46
サッカー2級審判員になって .....	47
フットサル審判員とプレーヤーとして .....	48
フットサル審判員育成コースからの3級審判員昇級審査会へ .....	48
<b>医事委員会</b>	
「肉離れ」に関するはなし .....	49
<b>賛助会員・協賛</b>	
2021年度賛助会員ご芳名 .....	50

## 2021年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 役員

2021/6/23

名誉会長	森 山 眞 弓		
最高顧問	石 崎 忠 利		
顧 問	内 野 直 忠	山 野 井 暉	手 塚 操
	岩 原 克 彦	室 井 和 比 古	
会 長	星 野 務		
副 会 長	橋 本 健 一 (国体・規律フェアプレー)	橋 本 大 輔 (Jクラブ)	
	佐 藤 俊 介 (施設)	糸 井 朗 (顕彰)	
専務理事	鈴 木 勇		
常務理事	小 田 林 宏 至 (財務)	鈴 木 篤 (第1種)	
	福 田 治 (シニア・事業)	川 上 栄 二 (技術強化・国体)	
理 事	(鈴木 篤) (第1種)	臼 井 紀 仁 (第2種)	
	御 子 貝 和 亮 (第3種)	久 々 宇 勤 (第4種)	
	徳 田 明 義 (女子)	石 田 浩 之 (クラブユース)	
	(福田 治) (シニア・事業)	諏 訪 英 司 (総務)	
	中 山 貴 之 (財務・事務局長)	(川上 栄二) (技術強化)	
	宮 川 進 (フットサル)	鈴 木 武 明 (審判)	
	村 上 富 士 夫 (記録広報)	飯 島 裕 生 (医事)	
	渡 辺 孝 (地区)	手 塚 貴 子 (グラスルーツ)	
	只 木 章 広 (Jクラブ)	高 井 剛 (ユースダイレクター)	
	石 田 利 雄 (マッチコミッショナー)		
監 事	川 村 壽 文	関 根 則 次	
事 務 局	専務理事	鈴 木 勇	
	常務理事	福 田 治	
	事務局長	中 山 貴 之	
	事務局員	本 田 実 紀	

## 事務局より

## NEZASカップ 第26回県サッカー選手権大会

記録広報委員会 村上富士夫

第101回天皇杯の県代表予選を兼ねた「NEZASカップ第26回県サッカー選手権大会」の準決勝を県グリーンスタジアムで4月18日に開催、また、5月9日に決勝が行われた。

準決勝には、FC CASA FORTUNA OYAMA（県社会人1部）、作新学院大（北関東大学）が出場。両チームとも前半を無得点で折り返し、後半17分にFW脇本大我が頭で押し込み得点。FC CASA FORTUNA OYAMAがそのまま作新学院大を下し、1-0で決勝に進出した。決勝は栃木シティFC（関東1部）と対戦することとなった。

## 準決勝

FC CASA FORTUNA OYAMA

1 (0-0, 1-0) 0

作新学院大学



5月9日の決勝は、栃木シティFCが1-1、PK戦5-3でFC CASA FORTUNA OYAMAを破り3大会連続12回目の優勝と天皇杯出場を決めた。

試合は前後半0-0で延長へ突入。延長前半にFC CASA FORTUNA OYAMAが先制したが、後半16分、栃木シティのDF山下宏輝がセットプレーから得点し同点となった。1-1で試合が終了し、その後PK戦となり、栃木シティは5人全員が成功させ勝負が決定した。

## 決勝

栃木シティFC

1 (0-0, 0-0, 延長、0-1, 1-0) 1  
(PK 5-3)

FC CASA FORTUNA OYAMA



## 第101回天皇杯全日本選手権

記録広報委員会 村上富士夫

第101回天皇杯全日本選手権は5月22日に開幕した。県協会の運営により県グリーンスタジアムで1回戦を開催。

1回戦に栃木シティFC（関東1部）が本県代表として出場。栃木シティFCの1回戦は当初22日に予定されていたが26日に延期となり、県グリーンスタジアムで山梨県代表の韮崎アストロス（山梨県リーグ）と対戦、9-0で大勝し4年ぶりに初戦を突破した。

栃木シティFCは攻守で終始圧倒。FW古谷三国、MF鈴木隼斗の2人がハットトリックの活躍を見せるなど、前半に4得点、後半に5得点の大量得点で勝利し、2回戦進出を決めた。

## ▽1回戦

栃木シティFC（栃木県代表）

9 (4-0, 5-0) 0

韮崎アストロス（山梨県代表）

2回戦は6月9日に各地で26試合が行われた。本県では県協会の運営により県グリーンスタジアムで開催され、J2の栃木SC出場。同じJ2のFC町田ゼルビアと対戦、2-0で勝利し3回戦へ進出した。

栃木SCは前半にFW松岡瑠夢の連続となるゴールで2点を先制。後半を無失点で抑え勝利をつかんだ。



▽2回戦

栃木SC (J2)

2 (2-0, 0-0) 0

FC町田ゼルビア (J2)



2回戦に進出した本県代表の栃木シティFCはJ1の柏レイソルと対戦し、2点を先制され、後半ロスタイムにも1点を失い、0-3で敗れた。

柏レイソル (J1)

3 (2-0, 1-0) 0

栃木シティFC

3回戦は7月7日に各地で開催され、本県では県協会の運営によりカンセキスタジアムとちぎで行われた。2回戦に勝利したJ2の栃木SCとJ1の鹿島アントラーズとの対戦となった。カンセキスタジアムとちぎで4,442人の観客が観戦するなか、栃木SCは鹿島アントラーズに0-3で敗れた。

栃木SCは前半から主導権を奪われる苦しい展開であったが前半を両チームとも無得点で折り返した。後半に入り、栃木SCは選手交代などで得点のチャンスを狙っていたが、鹿島アントラーズに3得点の連続失点を与え力尽きた。

▽3回戦

鹿島アントラーズ (J1)

3 (0-0, 3-0) 0

栃木SC (J2)



**「なでしこジャパン」  
国際親善試合開催**

県サッカー協会は、協会創立75周年記念と新スタジアムのこけら落としとなる、サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」の国際親善試合を6月13日にカンセキスタジアムとちぎでメキシコ代表を迎えて開催した。

当初は昨年6月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響で1年越しの開催となり、カンセキスタジアムとちぎでの初の国際試合に県内外から3,890人の観客が来場し盛り上がった。

試合は日本代表がメキシコ代表に5-1で快勝した。日本代表は開始直後から優位に試合を進め、前半FW岩渕真奈の得点で先制。後半には追加点を重ね、大量得点で勝利した。

日本代表

5 (1-0, 4-1) 1

メキシコ代表



# 第76回国民体育大会サッカー競技 関東ブロック大会

## 成年男子

### 【1回戦】

8/21 09:30 栃木Gメイン【終了】  
茨城 1 - 0 東京

8/21 11:30 栃木Gメイン【終了】  
栃木 0 - 0 山梨  
(PK 5-3)

8/21 09:30 栃木Gサブ【終了】  
群馬 2 - 2 埼玉  
(PK 3-5)

8/21 11:30 栃木Gサブ【終了】  
千葉 3 - 0 神奈川

### 【代表決定戦】

8/22 09:30 栃木Gメイン【終了】  
茨城 1 - 0 栃木

8/22 11:30 栃木Gメイン【終了】  
埼玉 1 - 1 千葉  
(PK 4-3)

### 【第3代表決定戦】

8/23 09:30 栃木Gメイン【終了】  
栃木 0 - 2 千葉

## 女子

### 【1回戦】

8/21 09:30 矢板サ【終了】  
茨城 0 - 2 群馬

8/21 11:30 矢板サ【終了】  
千葉 0 - 3 山梨

8/21 09:30 緑新矢板【終了】  
東京 1 - 0 栃木

8/21 11:30 緑新矢板【終了】  
神奈川 0 - 3 埼玉

### 【代表決定戦】

8/22 09:30 緑新矢板【終了】  
群馬 1 - 1 山梨  
(PK 4-2)

8/22 11:30 緑新矢板【終了】  
東京 3 - 0 埼玉

### 【第3代表決定戦】

8/23 10:00 緑新矢板【終了】  
山梨 2 - 0 埼玉

## 少年男子

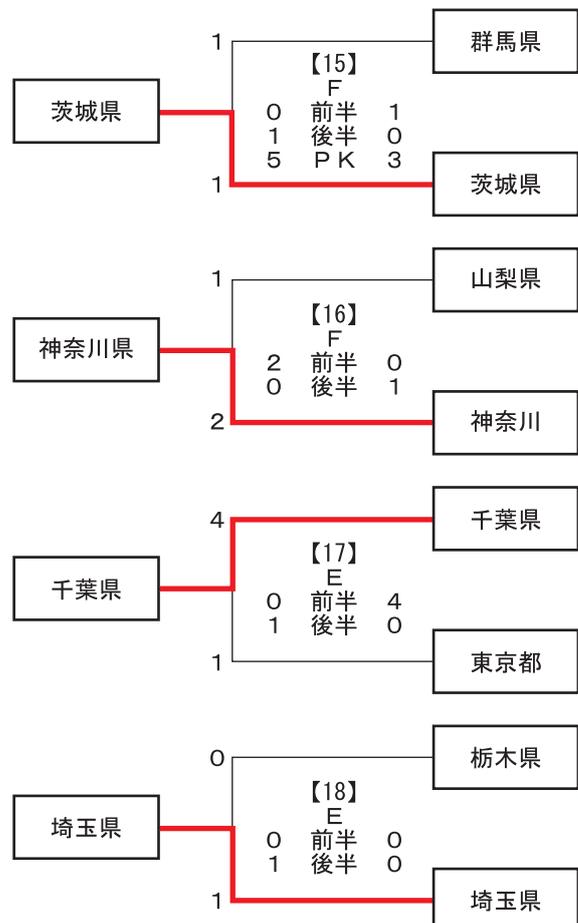
組合せ・試合結果

※【】数字はマッチナンバー

会場 (E) : 真岡市総合運動公園陸上競技場  
(F) : 栃木県グリーンスタジアム サブ(人工芝)

1位	東京都	2位	神奈川県
3位	埼玉県	4位	茨城県
5位	千葉県	6位	山梨県
7位	群馬県	8位	栃木県

7月11日(日)



## 栃木SC

## コロナ禍の中でも前に歩み続ける

栃木SC 広報 岩上享美

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、トップチームの公式戦（リーグ戦）も2021シーズンも制限がある中での試合運営をしています。それは、トップチームのみならず育成年代の選手たちも同じく、コロナ禍になる前と同じような活動ができていない現状があります。栃木SCのアカデミーには、U-18（高校生）・U-15（中学生）・U-12（小学生）・レディースU-15（中学生）のチームがありますが、それぞれ予定していた公式戦の中止や無観客試合での実施なども続いています。そして、県内6カ所で開催しているサッカースクールの活動も休止や会場変更やオンラインでの開催など、今までと同じような環境での開催が難しい現状があります。

しかし、そのような状況のなかでも、フロントスタッフ、トップチームの選手・スタッフ、育成部のスタッフがコミュニケーションを取りながらクラブフィロソフィーである“KEEP MOVING FORWARD”を胸に、常に何ができるかを考えてアクションを起こしています。これからまだこの先も新型コロナウイルス感染症との戦いは続いていくと思いますが、全員で前を向きながらどんな状況でも成長できるように歩んでいきます。

また、現在トップチームはシーズン終盤を迎えています。10月初めには緊急事態宣言も解除され、対戦相手チームのサポーターの方がスタジアムへ足を運んでくださったり、子どもたちが応援に来てくれる姿をみて少しずつスタジアムでも日常が戻ってきているように感じます。感染症予防対策をしながら1人でも多くの方々とスタジアムで笑顔でお出迎えできるよう準備して参りますので、引き続き共に戦っていただけましたら幸いです。よろしくお願いたします。



## 第1種委員会・社会人連盟

## 天皇杯を終えて

栃木シティフットボールクラブ  
若林 学

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

2021シーズンの天皇杯は2回戦でJ1柏レイソルに敗れましたが、Jチームに対し臆することなく戦う事ができました。Jリーグ入りを目指す栃木シティにとって、本気の柏レイソルと戦えたことはとてもいい経験になりました。

それだけではなく、栃木県予選となるNEZASカップからチームにとって価値のある試合が続きました。決勝戦では勝たなければいけないプレッシャーの中でPK戦までもつれた戦いを制し優勝。本大会出場を決める事ができました。本大会1回戦は前日に延期が決定。対戦相手も変わるという

## 第57回全国社会人サッカー選手権大会 関東予選大会に出場して

FC CASA 鯨岡佑太

異例の事態となりましたが、チームは集中を切らさず目の前の試合に全力で挑み、鈴木隼人（鹿沼市出身）のハットトリックの活躍もあり9-0で勝利しました。

普段出場機会が少ない選手の公式戦出場もチームにとってプラスになり、試合日、対戦相手変更などのイレギュラーにも対応しどんな状況でも勝ちを奪えたことは、今シーズン最大の目標のJFL昇格に向けた戦いである全国地域SCL、その先の入替戦に生きてくると思っています。

そして、柏レイソル。結果は0-3ではありましたが、J1のチーム相手に通用した部分も多くあり、選手たちが自信を持ってプレー出来ていたと感じています。柏レイソルのサポーターの方たちにも栃木シティの名前を印象付けた事は間違いありません。この経験をこれからの戦いに活かし、シーズン最後に笑えるようにしていきます。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブの今シーズンの挑戦は終わっていません。昨シーズン負けなかったけど勝ち取れなかったJFLの切符を取りに行きます。負けないうサッカーだけでは本当に欲しいものは手に入らないことを学び、勝ち切る強さを得るために日々のトレーニングに励んでいます。そして、何よりも地域の皆様と共にJリーグ入りを目指していきたくと思っています。コロナ禍ではありますが、地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んで行くことはもちろん、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカークラブを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。



日頃から、栃木県サッカー協会をはじめ、ホームタウンである小山市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

トップチームは6月に行われた、第57回全国社会人サッカー選手権大会関東予選に出場しました。結果は1回戦、八王子FC（東京都）に2-0で勝利。2回戦は流通経済大学ドラゴンズ龍ヶ崎（関東1部）に不戦勝。そして、ブロック決勝でジョイフル本田つくばFC（関東1部）に1-3で敗れました。ブロック決勝では試合開始早々に警戒していたコーナーキックから失点してしまい、立ち上がりから相手に主導権を握られてしまいました。前半のうちに1度はセットプレーから追いついたものの、終わってみれば2点差のスコア以上に関東1部のチームとのスピード感、フィジカル面の差を感じた試合となりました。この試合に向けて、個の力ではなかなか難しい展開が予想される中、局面においてチームとして数的優位をいかにつくれるかを事前に準備、共通理解をトレーニングで図り試合に臨みましたが、逆に相手にサイドで数的優位をつくられてしまい、暑い中で体力を消耗し、終盤に失点を重ねてしまいました。関東昇格に向けてチームとしても個人としても更なる強化、レベルアップが必要と感じる試合となりました。

最後になりますが、大会開催に際しましては、一般社団法人関東サッカー協会・関東社会人サッカー連盟をはじめ、関東各都県社会人サッカー連盟のみなさま、大会関係者のみなさま、コロナ禍の中大会運営ありがとうございました。今回の大会が選手にとってもクラブにとっても自分たちの立ち位置を知る上で、貴重な大会となりました。また、関東昇格に向けての良い経験、強化となりました。本当にありがとうございました。



## 第57回全国社会人サッカー選手権大会 関東予選に出場して

ヴェルフェ矢板 鷹觜 倫弘

日頃より(公社)栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市の皆さまをはじめ多大なるご支援、ご協力、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。

去る6月13日に、第57回全国社会人サッカー選手権大会関東予選に栃木県第2代表として出場してまいりましたのでご報告いたします。今大会に臨むにあたっては、2つのことを意識していました。1つ目は、勝ち上がった際に、ホームタウンである矢板市をはじめとした地元の栃木県で行われる全国社会人サッカー選手権大会に出場できるということです。今般の状況により、支えていただいている皆さまに試合を見ていただく機会が作れずにいるため、全国の舞台で選手が躍動する姿を是非見ていただきたいと考えていました。2つ目は、我々が今シーズン目標としている関東リーグ昇格を果たすために、自分たちの歩みを確かめる機会であるということです。今大会では、関東リーグ所属チームをはじめとした関東各都県のチームと公式戦で対戦できるため、自分たちの強みや課題を把握する貴重な機会であると考えていました。以上2つのことを選手・スタッフ間で共有し、準備を進めました。

対戦相手は関東サッカーリーグ1部のブリオベッカ浦安で、対戦相手としてはこれ以上ない相手でした。詳細は割愛いたしますが、今シーズンの試合映像をチェックし、以前対戦した際の経験等も踏まえながら、いかに相手の特徴を消すことができるか、相手を上回る状況を作り出せるかを入念に分析し、トレーニングをして試合に臨みました。

試合は前半に2失点し、後半攻勢に出ましたが得点は奪えず、そのまま0-2で敗れました。事前の分析通り、相手の特徴を捉えた上でのゲーム展開でしたが、全体のコーディネートが個で上回られた2失点でした。後半はシステムを変更し許容するリスクを増やしたこと、リードした相手が無理をしなくなったことで何度も相手ゴール前まで迫る機会を作りましたが、得点を奪うまでには至りませんでした。

地元栃木県での全国社会人サッカー選手権大会への出場権を得ることはかなわず、非常に残念でしたが、我々の現在の実力、強み、課題を明確にすることができました。私も含めて、選手たちは点差以上

に相手との差を実感したようでした。その意味では、本当に貴重な経験を積ませていただきました。

この差を埋めるためには、我々の日常を変えるより他はありません。目指す場所にたどり着くためには何が必要なのか、どう振る舞えばいいのか、何を表現するのか。試行錯誤の日々は続いています。

栃木県の代表として出場権を得ることはできませんでしたが、この経験を意味あるものにするために、歩み続けたいと思います。

末筆にはなりますが、今般の社会情勢にもかわらずこのような機会をいただき、大会の開催にご尽力いただいた関係の皆さま、対戦いただいたブリオベッカ浦安の皆さま、送り出させていただきました社会人連盟をはじめとする(公社)栃木県サッカー協会の皆さまに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 第28回全国クラブチームサッカー 選手権大会 関東大会を終えて

スポーツかわち監督 秋山勝裕

私たちは地域総合型スポーツクラブである『スポーツかわち「ship」』のサークルの1つとして活動しています。事務局の皆さんや会員の皆さんに支えられながらチームを続けてきました。現在、私たちは栃木県社会人サッカー連盟2部Aリーグに所属していますが、初優勝をしたのは昨年度の第27回全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会のことでした。今までリーグ戦でもカップ戦でも優勝することが出来ずに、私が監督を務めて13年が経っていました。この13年間で多くの選手と出会い、そして多くの選手がチームを去っていきました。チームの中心選手が上位カテゴリーにチャレンジしたいと言えば、快く送り出してきました。その根底に

あったのは、私が監督に就く以前のチーム代表者の方針である「来るものは拒まず、去る者は追わず」ということを大切にしたいという考えであり、選手を応援したいという思いでした。そして毎年新しい選手をチームに迎えてチーム作りをしてきました。しかし、ここ数年は選手の年齢層も高くなり、チームに定着してくれる選手が多くなりました。その結果が昨年度の初優勝に繋がったのだと感じています。

そして今年度、4、5月に行われた第28回全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会で2年連続優勝を果たし、9月18、19日に行われた関東大会（茨城県開催）に出場しました。8月から緊急事態宣言が栃木県にも発出され、関東大会当日も栃木・茨城県ともに緊急事態宣言中でした。チーム内では関東大会に向けて練習試合をしたいという声からもありました。社会人サッカーはチームによって目指すところは様々ですが、私たちのチームの選手の優先すべきことは自分や家族の安全、そして各々の仕事です。サッカーのために仕事をしているわけではなく、仕事が本業です。サッカーはより豊かに生活するための1つと捉え、勝つことと同じくらいに、この仲間でサッカーを楽しむ時間を大切に活動してきました。今はサッカーを楽しむ時間よりも選手の核になるものを守る時と考え、関東大会はあるけれども、チームの活動は自粛し、各々ができる範囲で体を動かすことを決めました。関東大会当日もコロナ感染予防のために参加を断念する選手がいて、全員が集まることは出来ませんでした。約1か月半ぶりに会った選手たちはどこか嬉しそうでした。試合は2年連続で1回戦群馬県代表チームと対戦し、力の差を見せつけられた敗戦となりました。しかし、この仲間で久しぶりにサッカーが出来たことに大きな意味がありました。まだまだコロナ禍の中でのサッカーとなりますが、そんな環境だからこそサッカーが出来ることを今まで以上に幸せに感じるのかもしれませんが、そんなことを考えることが出来た今回の関東大会となりました。

最後に、コロナ禍の厳しい状況でも多くの工夫と配慮でより安心・安全に大会を運営していただいた関東社会人サッカー連盟、開催地であった茨城県社会人サッカー連盟の方々のご尽力に感謝致します。また、長きに渡って温かくチームを見守っていただいている栃木県社会人サッカー連盟および、宇都宮市社会人サッカー連盟の皆さまに感謝申し上げます。そしてこれからも宜しくお願い致します。



## 第76回（2021年）国民体育大会 関東ブロック大会（成年男子）

成年男子監督：堀田利明  
コーチ：高秀賢史

第76回三重とこわか国体の出場をかけた成年男子の関東ブロック大会では、初戦では山梨県に0-0 PK戦で勝利し、代表決定戦で茨城県に0-1、最終代表決定戦で千葉県には、0-2で敗れてしまい、代表にはなれませんでした。皆様の期待や応援に応えることができず、大変申し訳ありませんでした。

選手編成については、関東1部リーグに所属する「栃木シティフットボールクラブ」、栃木県1部リーグに所属する「FC CASA FORTUNA OYAMA」と「ヴェルフェ矢板」に協力をいただき栃木選抜チームを構成しました。また、スタッフについては、これからの栃木のサッカーの指導を担うCASAの鯨岡監督とヴェルフェの鷹嘴監督、小林選手、箕輪選手に、協力いただきました。

チームの方針としては、One team（攻守ともに積極的）を基本としました。また、所属チームの活動を優先し、日頃の練習や試合の中で、自身のコンディションをあげました。

国体活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当初、思い描いた強化試合や練習の実施ができませんでした。その結果、攻撃面での連携がうまく取れず、3試合での得点が無得点という結果となってしまいました。守備の面では個の場面でやられてしまう場面はあったもののチーム全体での意識は非常に高いものとなっていました。

茨城県代表や千葉県代表は、関東リーグに所属す

る選手で構成し、格上の相手ながら、栃木県代表チームとして一つにまとまり、戦えたことは、選手、スタッフ共に貴重な経験となりました。1回戦の山梨県に勝利した後、三重国体の開催について、三重県知事が中止を申し入れるなどの情報が入る中、選手は、栃木のためにとチームが一つとなり、いい雰囲気です試合に臨んでくれたことは選手自身の成長にもつながることだと思います。

チーム編成するにあたり、昨年12月から県内社会人・大学各チームで「強化練習会」を行うとともに、4月からは各種大会が開催されるため、選手選考に向け、視察に回り、候補選手をピックアップしました。さらに、上記の活動に合わせ、社会人連盟の鈴木理事長、技術委員会指導者養成部の槇氏、と我々の4人で構成する「成年男子強化作業部会」を定期的で開催し、強化に向けた取り組みを中心に議論して進めてきました。その中の議論の一つとして、単独チームで出ること想定されますが、国体は、栃木県全体の成年サッカーのレベルアップの場として役割を担っていることや、来年のとちぎ国体につながるようなチームにしていく必要があることから、選抜チームを構成することにしました。

今年度の関東ブロック大会を戦い、攻撃に変化をつけることができる個の能力が求められることがはっきりしました。それぞれの特徴ある個と個の能力が効果的に融合することで、相乗効果によりチーム力が向上するものだと認識しました。そのためにも、限られた時間の中ではありますが、少しでも多くの試合や練習を通して、チームとしての完成度をより一層高めていくためにいい準備をしていきたいと思っています。

来年のとちぎ国体で結果を出すためにも、栃木のために熱く戦ってくれる選手が集まり、チーム一丸となって戦えるチームを作っていきたいと思えます。最後に、この大会に望むにあたり、県協会や関係者の方々をはじめ、栃木のためにと、集まっていた選手、スタッフ、またその所属する各チーム関係者の方々に、深く感謝申し上げますとともに、より一層、栃木県のサッカー強化に向け取り組んでいきたいと思えます。



## 第2種委員会・高校連盟

### 高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長(男子)  
臼井 紀仁

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により関東大会・全国高校総体が中止となってしまいましたが、今年度は県予選・本大会とも開催されました。

#### 県総体兼関東大会県予選/関東大会

県予選では、宇短大附属、佐野日大、真岡、國學院栃木がベスト4進出。いずれも拮抗した好ゲームとなった準決勝戦では、真岡と佐野日大が勝利し、山梨県で行われる関東大会出場を果たしました。第1・第2代表を決める決勝戦では、真岡が2-0で勝利しました。

関東大会では、真岡が明秀日立(茨城県)に0-3、佐野日大が葦崎(山梨県)に0-1と、ともに初戦敗退となりました。

#### 全国高校総体県予選/全国高校総体(インターハイ)

県予選準決勝では、矢板中央が宇短大附属を下し、関東予選決勝と同カードとなった佐野日大対真岡では、佐野日大がリベンジを果たしました。決勝では矢板中央がタフな戦いを制し、3大会連続10度目のインターハイ出場を果たしました。準決勝・決勝はいずれも1-0と実力伯仲した中で、矢板中央の勝負強さが感じられました。

インターハイ1回戦では、大分(大分県)に4-1で完勝し期待が膨らみましたが、2回戦、岡山学芸館(岡山県)に0-1で惜しくも敗れました。イン



ターハイでは、真岡が平成25年(2013年)に3位となったのを最後に上位進出がありません。冬の全国選手権大会では、矢板中央が2大会連続ベスト4へ進出しているだけに、今後は本県代表校がインターハイでも活躍できるよう、県内のレベルアップを目指していきたいと思ひます。



(全国高校総体県予選 決勝戦の1シーン)

**高円宮杯TFA U-18ユースリーグ栃木**

昨年度は、「1回戦制・昇降格なし」で9月から実施しました。1部10チーム、2部10チーム×2ブロック、3部10~11チーム6ブロックで構成し、県内ほぼ全ての高校と、栃木SC・栃木シティの2クラブが参加して、今年度は通常通り4月から実施しました。7月までに前期日程をほぼ終了し、8月下旬以降、後期をスタートする予定でしたが、緊急事態宣言発出と、9月末までの延長を受け、後期はリーグ方式を変更して10月以降実施する方向で準備しています。

現在、ユースリーグ栃木の上位リーグにあたるプリンスリーグ関東に矢板中央が所属し、関東の強豪高校・クラブとハイレベルな争いをしていひます。来年度からはプリンスリーグ関東が2部制になるため、本県の1部リーグから1チームが、関東の1部・2部に参入することとなります。全国でもトップクラスのチームがひしめく関東の中で、日常的に強度の高い試合を経験できるチームが増えることは、本県のレベルアップにもつながると期待しています。

**おわりに**

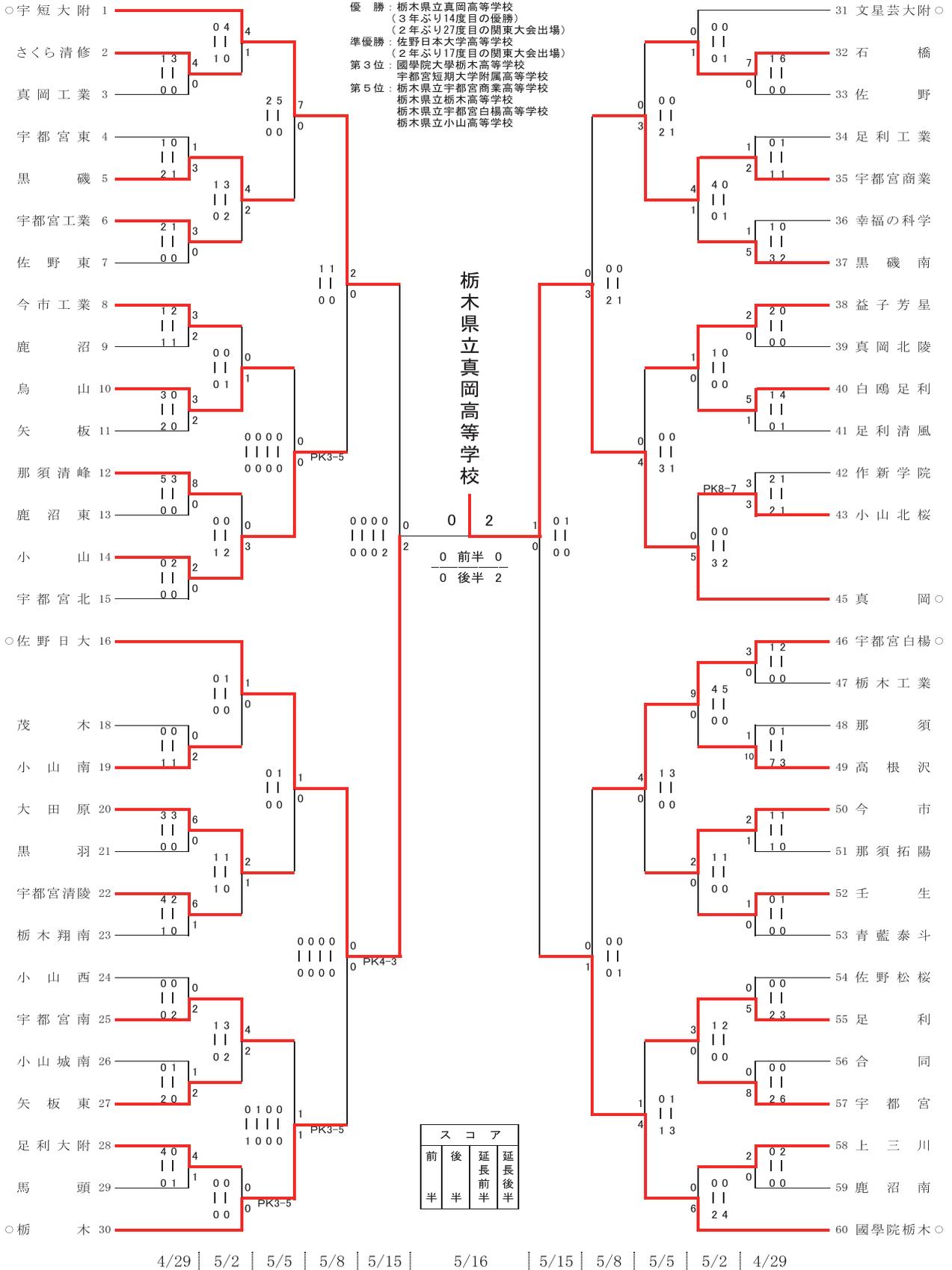
昨年度は選手権大会以外のトーナメント大会が全て中止となり、大きな喪失感が広まった1年でした。新型コロナウイルス感染症が引き続き私たちの日常に影響を与え続ける中ではありひますが、

感染拡大防止対策を講じながら、今年度はここまで何とか各大会を実施してこることができました。選手やご家族をはじめ、高校サッカーに関わる多くの方々のご協力を感謝申し上げます。今後も選手権栃木大会、ユースリーグ、新人大会と、シーズン後半の戦いが残っています。コロナだけでなく、台風等の気象状況にも対応しつつ、選手と関係者の安全を第一に考え、必要な対策を講じながら大会運営を進めて行きたいと考えていひます。引き続き、関係する皆様のご理解とご協力をお願いしひます。



# 令和3年度栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会 兼 第64回関東高校サッカー大会県予選会 結果

令和3年4月29日 5月2・5・8・15・16日



# 令和3年度 第64回 関東高校サッカー大会に出場して

栃木県立真岡高等学校サッカー部  
川上 栄二



## 育成・強化ストーリー

新型コロナウイルスの影響により、昨年度の栃木大会は大会そのものが中止となったため、2年ぶりではあるが2大会連続で優勝（県総体14回目、関東出場26回目）することができたことは感慨深い思いがある。

昨年はコロナ禍で春から夏にかけての大会が全て中止となり、当時の高校3年生に対して、手厚いトレーニングや特別企画（M.League）の遂行を優先してきこともあり選手権栃木大会に向けての始動が遅くなった。戦略的に思慮浅いと言われればそれまでだが、個人的にはどうしてもそちらを優先したかった。本校の育成・強化に関しては入学時から、また新チーム立ち上げ時からなど事情により多少の開始時期の差異はあるが一貫したストーリーを持っている。それが通用しなかったのが昨年の夏から秋、そして冬にかけての時期であった。

## 課題の発見と新人大会中止

栃木県に初の緊急事態宣言が出される直前にトップチームの県外遠征が行えたことは良かった。県外強豪と対戦することで今年のチームの課題が全て浮き彫りになった。内容は多岐にわたりそして多い。球際の弱さ、走力のもの足りなさ、テクニックの低さ、サッカーに必要なコミュニケーションの不足、そして自分に約束をせずすぐに諦めてしまうメンタリティの弱さなど。格下には滅法強いが、同等との競合いや格上に対しては、自分たちから崩れていくという体たらく。課題の深刻さ、そして短期間での改善が見込めないことから、新人大会には

間に合わないと痛感し割り切ろうとした矢先、冒頭の緊急事態宣言。そして新人大会の中止。その不運を逆にトレーニング時間にしっかりと転換できたことは良かった。筋トレ、走力の改善、コミュニケーションのためのプログラムやあえてクラシックなトレーニング、短時間で集中して取り組むことの大切さ、もちろん真岡オリジナルトレーニングなど選手たちと向き合う時間が多くとれたことは大きな収穫だった。また、私たちコーチ陣のレベルアップのために選手に対してコーチの評価アンケートなども実施した。こちらにもコーチ陣には大きな刺激となった。そういう意味では、多角的に真岡高校サッカー部を確かめながら、また選手個々のレベルを高めながらじっくりと日々を過ごすことができた。

## 3月の強化

例年参加していた各種春季フェスティバルも全て中止となった。そこでトップに関しては制限解除後、3/25, 26, 27, 28（A1：3W1D）と単日での4連戦及び、3/29～31と2泊3日で遠征（3年Grp：5W1D、2年Grp：4W3D）を行った。この連戦を強行した理由は二つ。一つは選手たちの試合に対する非常に強い欲望の強さ。もう一つはこれまでのトレーニングの成果（食事やメンタル、疲労回復などの自己管理面全ても含め）を確認したかったからだ。この経験は選手たちにとって大会では得られないようなある種の達成感を与えてくれたと感じた。

## 関東大会本戦

県の第一代表で参加した本戦では周知の通り茨城県代表の明秀日立に0-3で完敗した。敗因は県外情勢の分析の甘さからくる私自身の戦略ミスだった。コロナ対策を講じながらの県内大会や県内リーグに精一杯で、他県情報や試合分析まで余裕がなかったことにある。この試合を通して、新たな収穫があるとすれば一つ。それは、サッカーの原点にもなるが、選手自身がかつとサッカーを知りゲームを通して起こる様々なイレギュラーに対して対応できる力を持たなければならないということだ。そういう意味では私の指導理念であり、最も得意とするはずの部分が欠落していたのかもしれない。そう考えると、私たち指導者もトライ&エラーの繰り返しなのかもしれない。相手の戦略、ストロングやウィーク、試合を取り巻く状況などを具に捉え、何を実行していくべきか思考しながら一瞬の閃きを信じて試合を進めていく、それがサッカー

の真骨頂ではないか。世界の中で勝ちきれない日本代表と共通の課題。そういう意味でも、「自分たちが試合をコントロールできる」ことに無類の喜びがあることを、選手たちに伝えていくことのできる指導者として、もう一度自分の立ち位置を再確認できる大切な試合となった。



## 令和3年度 第64回関東 高等学校サッカー大会に出場して

佐野日本大学高等学校サッカー部  
副主将 出口琉生

この度、第64回関東高等学校サッカー大会に栃木県第2代表として出場させて頂きました。栃木県予選では、PK戦1回、延長戦1回と厳しい戦いが続き、決勝戦では真岡高校に0-2で敗れ、3年連続の準優勝となりました。目標にしていた第1代表として本大会に出場することは叶いませんでしたが、試合を重ねるにつれてチームとしてはもちろん、選手個人としても成長することができたと思います。

第64回関東高等学校サッカー大会1回戦は山梨県代表の韮崎高校と対戦しました。韮崎高校とは1度ルーキーリーグで対戦したことがあり、組織力が高く、献身的に働く選手が多い印象がありま

した。試合に入ると、前半は相手のプレッシャーの速さとベンチメンバーを含めた全員の気迫に圧倒されてしまい、守備の時間が長く苦しい時間が続きました。それでも、後半からは私たちのプレースタイルを意識した展開ができ、決定的な場面も多くありました。その後、一進一退の攻防が続きましたが、後半アディショナルタイムにクリアミスからカウンターを受け、それを防ぎ切れずに失点してしまい、そのまま試合終了となってしまいました。

今大会を通して、今後取り組むべき課題を多く見つける事ができました。その課題を1つずつ確実に克服できるように、チーム全体で一日一日を大切にしていきたいと思っています。

最後に、現在、新型コロナウイルスの影響で社会情勢が大変な事態にもかかわらず、安全に大会を運営して頂いた大会関係者、指導者、保護者の皆様に、感謝申し上げます。協力してくださる方たちのおかげでサッカーに打ち込めていること、それが当たり前ではないことを改めて感じています。応援してくださる方への感謝の気持ちを忘れずに尽力していきますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



# 高円宮杯U-18サッカーリーグ2021 ユースリーグ

## 高円宮U-18リーグ1部

	栃木 SCU-18	矢板中央 B	宇短大附	佐野日大	真岡	白鷲足利	栃木	文星芸大附	宇都宮白楊	さくら清修	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
栃木 SCU-18	--	4 0 2	1 0 0	1 0 3	2 0 0	3 0 0	7 0 0	5 0 1	5 0 0	21	7	0	1	28	6	22	1	
矢板中央 B	--	--	3 0 2	1 0 0	4 0 0	2 2 2	--	4 0 1	3 0 0	3 0 0	19	6	1	0	20	5	15	2
宇短大附	2 0 4	2 0 3	--	2 2 2	1 2 1	6 0 1	4 0 0	1 0 0	4 0 2	4 0 0	17	5	2	2	26	13	13	3
佐野日大	0 0 1	0 0 1	2 2 2	--	0 2 0	3 0 0	5 0 0	7 0 0	0 2 0	3 0 0	15	4	3	2	20	4	16	4
真岡	3 0 1	0 0 4	1 2 1	0 2 0	--	0 0 1	1 2 1	1 0 0	3 0 1	6 0 0	15	4	3	2	15	9	6	5
白鷲足利	0 0 2	2 2 2	1 0 5	0 0 3	1 0 0	--	1 0 2	3 0 0	1 0 0	1 0 0	13	4	1	4	10	15	-5	6
栃木	0 0 3	--	0 0 4	0 0 5	1 2 1	2 0 1	--	0 0 4	1 0 0	2 2 2	8	2	2	4	6	20	-14	7
文星芸大附	0 0 7	1 0 4	0 0 1	0 0 7	0 0 1	0 0 3	4 0 0	--	2 0 1	1 0 3	6	2	0	7	8	27	-19	8
宇都宮白楊	1 0 5	0 0 3	2 0 4	0 2 0	1 0 3	0 0 1	0 0 1	1 0 2	--	2 0 0	4	1	1	7	7	19	-12	9
さくら清修	0 0 5	0 0 3	0 0 4	0 0 3	0 0 6	0 0 1	2 2 2	3 0 1	0 0 2	--	4	1	1	7	5	27	-22	10

## 高円宮U-18リーグ2部A

	矢板中央C	栃木 SCU-18B	佐野日大B	國學院栃木	宇都宮南	小山	宇都宮白楊B	真岡工業	佐野東	矢板東	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
矢板中央C	--	2 0 0	1 2 1	2 0 0	4 0 0	2 0 0	12 0 0	1 0 0	5 0 0	15 0 0	25	8	1	0	45	1	44	1
栃木 SCU-18B	0 0 2	--	1 0 0	4 0 1	3 0 0	2 2 2	4 0 1	2 0 1	4 0 0	8 0 1	24	8	0	1	29	7	22	2
佐野日大B	1 2 1	0 0 1	--	2 2 2	1 0 0	6 0 1	4 0 1	1 0 0	2 0 1	3 0 0	20	6	2	1	16	6	10	3
國學院栃木	0 0 2	1 0 4	2 2 2	--	4 0 1	3 0 0	1 0 0	5 0 1	2 0 1	3 0 0	19	6	1	2	24	11	13	4
宇都宮南	0 0 4	0 0 3	0 0 1	1 0 4	--	0 0 1	1 2 1	1 0 3	3 0 0	2 0 0	10	3	1	5	12	18	-6	5
小山	0 0 3	1 0 3	0 0 2	0 0 6	2 0 4	--	3 0 2	2 2 2	1 2 1	3 0 2	8	2	2	5	12	25	-13	6
宇都宮白楊B	0 0 12	1 0 4	1 0 4	0 0 1	1 2 1	2 0 1	--	3 0 2	2 0 1	0 2 0	8	2	2	5	10	28	-18	7
真岡工業	0 0 1	1 0 2	0 0 1	1 0 5	3 0 1	0 0 3	2 0 3	--	2 0 0	2 0 3	7	2	1	6	13	18	-5	8
佐野東	0 0 5	0 0 4	1 0 2	1 0 2	0 0 3	0 0 1	1 0 2	0 0 2	--	1 0 0	4	1	1	7	5	21	-16	9
矢板東	0 0 15	1 0 3	0 0 3	0 0 3	0 0 2	0 0 1	0 2 0	3 0 2	0 0 1	--	4	1	1	7	6	37	-31	10

## 高円宮U-18リーグ2部B

	足利大附	宇短大附B	真岡B	さくら清修B	小山西	宇都宮	小山西	白鷲足利B	大田原	石橋	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
足利大附	--	2 0 1	2 0 1	2 0 0	5 0 0	1 0 2	2 0 1	4 0 0	4 0 1	6 0 0	24	8	0	1	28	6	22	1
宇短大附 B	1 0 2	--	5 0 1	2 0 0	1 0 2	2 0 0	7 0 0	2 0 0	3 0 2	14 0 0	21	7	0	2	37	7	30	2
真岡B	1 0 2	1 0 5	--	4 0 0	2 0 0	2 0 0	3 0 0	2 0 1	3 0 2	2 0 1	21	7	0	2	20	11	9	3
さくら清修B	0 0 2	0 0 2	0 0 4	--	3 0 2	1 0 0	1 0 0	3 0 0	1 0 0	4 0 1	18	6	0	3	13	11	2	4
小山西	0 0 5	2 0 1	0 0 2	2 0 3	--	1 2 1	0 0 1	3 0 2	1 0 0	2 0 0	13	4	1	4	11	15	-4	5
宇都宮	2 0 1	0 0 2	0 0 2	0 0 1	1 2 1	--	0 2 0	1 0 2	1 0 0	2 0 0	11	3	2	4	7	9	-2	6
小山西	1 0 2	0 0 7	0 0 3	0 0 1	1 0 0	0 2 0	--	3 0 1	0 0 2	2 0 0	10	3	1	5	7	16	-9	7
白鷲足利B	0 0 4	0 0 2	1 0 2	0 0 3	2 0 3	2 0 1	1 0 3	--	1 0 0	4 0 0	9	3	0	6	11	18	-7	8
大田原	1 0 4	2 0 3	2 0 3	0 0 1	0 0 1	0 0 1	2 0 0	0 0 1	--	3 0 0	6	2	0	7	10	14	-4	9
石橋	0 0 6	0 0 14	1 0 2	1 0 4	0 0 2	0 0 2	0 0 2	0 0 4	0 0 3	--	0	0	0	9	2	39	-37	10

高円宮U-18リーグ3部a

	矢板中央D	矢板	さくら清修C	那須拓陽	那須清峰	烏山	大田原B	黒磯	高根沢	さくら清修	馬頭	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
矢板中央D		4○1	2○1	1●2	1●2	1○0	12○0	14○0	12○0	4○2	10○0	24	8	0	2	61	8	53	1
矢板	1●4		3○0	1○0	1○0	1○0	1●2	7○6	5○1	4○1	5○2	24	8	0	2	29	16	13	2
さくら清修C	1●2	0●3		1△1	1○0	0△0	4○1	3○0	5○1	11○1	4○0	20	6	2	2	30	9	21	3
那須拓陽	2○1	0●1	1△1		2○1	1△1	2△2	1●2	3○1	2○1	2○1	18	5	3	2	16	12	4	4
那須清峰	2○1	0●1	0●1	1○2		1○0	1○0	1●2	2△2	1○0	4○0	16	5	1	4	13	9	4	5
烏山	0●1	0●1	0△0	1△1	0●1		2○0	0△0	3○0	4○0	6○0	15	4	3	3	16	4	12	6
大田原B	0●12	2○1	1●4	2△2	0●1	0●2		0●2	3○1	1○0	2○1	13	4	1	5	11	26	-15	7
黒磯	0●14	5●7	0●3	2○1	2○1	0△0	2○0		0●7	1●2	1△1	11	3	2	5	14	36	-22	8
高根沢	0●12	1●5	1●5	1●3	2△2	0●3	1●3	7○0		4○1	4○0	10	3	1	6	21	34	-13	9
黒磯南	2●4	1●4	1●11	1●2	0●1	0●4	0●1	2○1	1●4		1△1	4	1	1	8	9	33	-24	10
馬頭	0●10	2●5	0●4	1●2	0●4	0●6	1●2	1△1	0●4	1△1		2	0	2	8	6	39	-33	11

高円宮U-18リーグ3部b

	宇都宮北B	宇都宮工業	宇短大附C	文星芸大附C	作新学院	真岡工業B	今市	鹿沼	鹿沼東	烏山B	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
宇都宮北B		2○1	1○0	0●4	1○0	3○2	2○1	2○1	3○0	1○0	24	8	0	1	15	9	6	1
宇都宮工業	1●2		0△0	2○0	3○2	9○0	8○0	1△1	11○1	2○0	20	6	2	1	37	6	31	2
宇短大附C	0●1	0△0		0●1	2○0	2○1	5○1	2○0	2○0	2○0	19	5	1	2	15	4	11	3
文星芸大附C	4○0	0●2	1○0		2△2	3△3	1△1	2○1	4○0	--	15	4	3	1	17	9	8	4
作新学院	0●1	2●3	0●2	2△2		--	2△2	3○0	3○0	3○1	11	3	2	3	15	11	4	5
真岡工業B	2●3	0●9	1●2	3△3	--		5○4	4○1	1●2	1○0	10	3	1	4	17	24	-7	6
今市	1●2	0●3	1●5	1△1	2△2	4●5		4○1	4○2	1△1	9	2	3	4	18	27	-9	7
鹿沼	1●2	1△1	0●2	1●2	0●3	1●4	1●4		2○1	2○0	7	2	1	6	9	19	-10	8
鹿沼東	0●3	1●11	0●2	0●4	0●3	2○1	2●4	1●2		2○0	6	2	0	7	8	30	-22	9
烏山B	0●1	0●2	0●2	--	1●3	0●1	1△1	0●2	0●2		1	0	1	7	2	14	-12	10

高円宮U-18リーグ3部c

	宇都宮北	益子芳星	宇都宮工業B	真岡D	宇短大附D	宇都宮白楊C	今市工業	上三川	宇都宮商業B	真岡北陵	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
宇都宮北		0●1	3○2	3○1	3○2	4○0	5○1	5○0	2○1	5○0	24	8	0	1	30	8	22	1
益子芳星	1○0		0△0	3○0	3●5	3○1	2△2	9○1	7○0	9○0	20	6	2	1	37	9	28	2
宇都宮工業B	2●3	0△0		1△1	1○0	2○1	4○2	0●1	4○1	2○0	17	5	2	2	16	9	7	3
真岡D	1●3	0●3	1△1		3○0	1●4	3○2	3○0	4○0	5○0	16	5	1	3	21	13	8	4
宇短大附D	2●3	5○3	0●1	0●3		0●2	4○2	3○0	4○1	2○0	15	5	0	4	20	15	5	5
宇都宮白楊C	0○4	1●3	1●2	4○1	2○0		0●2	1○0	0△0	2○0	13	4	1	4	11	12	-1	6
今市工業	1●5	2△2	2●4	2●3	2●4	2○0		4○2	3○1	2△2	11	3	2	4	20	23	-3	7
上三川	0●5	1●9	1○0	0●3	0●3	0●1	2●4		0●1	3○2	6	2	0	7	7	28	-21	8
宇都宮商業B	1●2	0●7	1●4	0●4	1●4	0△0	1●3	1○0		1●2	4	1	1	7	6	26	-20	9
真岡北陵	0●5	0●9	0●2	0●5	0●2	0●2	2△2	2●3	2○1		4	1	1	7	6	31	-25	10

高円宮U-18リーグ3部d

	文星 芸大附B	宇都宮商業	茂木	真岡C	宇都宮東	宇短大附E	宇都宮清陵	宇都宮 白楊D	宇都宮B	宇都宮南B	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
文星 芸大附B		2 0 0	2 Δ 2	0 Δ 0	0 Δ 0	7 0 0	4 0 1	3 0 1	2 0 0	3 0 0	21	6	3	0	23	4	19	1
宇都宮商業	0 ● 2		5 0 0	0 Δ 0	3 0 1	1 0 0	6 0 0	5 0 1	4 0 0	2 Δ 2	20	6	2	1	26	6	20	2
茂木	2 Δ 2	0 ● 5		0 Δ 0	5 0 0	2 0 0	4 0 3	1 0 0	1 0 0	1 0 0	20	6	2	1	16	10	6	3
真岡C	0 Δ 0	0 Δ 0	0 Δ 0		3 0 0	1 0 0	3 0 0	7 0 0	1 0 0	0 Δ 0	19	5	4	0	15	0	15	4
宇都宮東	0 Δ 0	1 ● 3	0 ● 5	0 ● 3		5 0 1	0 ● 3	1 0 0	5 0 3	1 0 0	13	4	1	4	13	18	-5	5
宇短大附E	0 ● 7	0 ● 1	0 ● 2	0 ● 1	1 ● 5		5 0 1	2 0 0	2 0 0	1 0 0	12	4	0	5	11	17	-6	6
宇都宮清陵	1 ● 4	0 ● 5	3 ● 4	0 ● 3	3 0 0	1 ● 5		3 0 1	1 ● 2	7 0 0	9	3	0	6	19	25	-6	7
宇都宮 白楊D	1 ● 3	1 ● 5	0 ● 1	0 ● 7	0 ● 1	0 ● 2	1 ● 3		6 0 0	6 0 1	6	2	0	7	15	23	-8	8
宇都宮B	0 ● 2	0 ● 4	0 ● 1	0 ● 1	3 ● 5	0 ● 2	2 0 1	0 ● 6		1 0 0	6	2	0	7	6	22	-16	9
宇都宮南B	0 ● 3	2 Δ 2	0 ● 1	0 Δ 0	0 ● 1	0 ● 1	0 ● 7	1 ● 6	0 ● 1		2	0	2	7	3	22	-19	10

高円宮U-18リーグ3部e

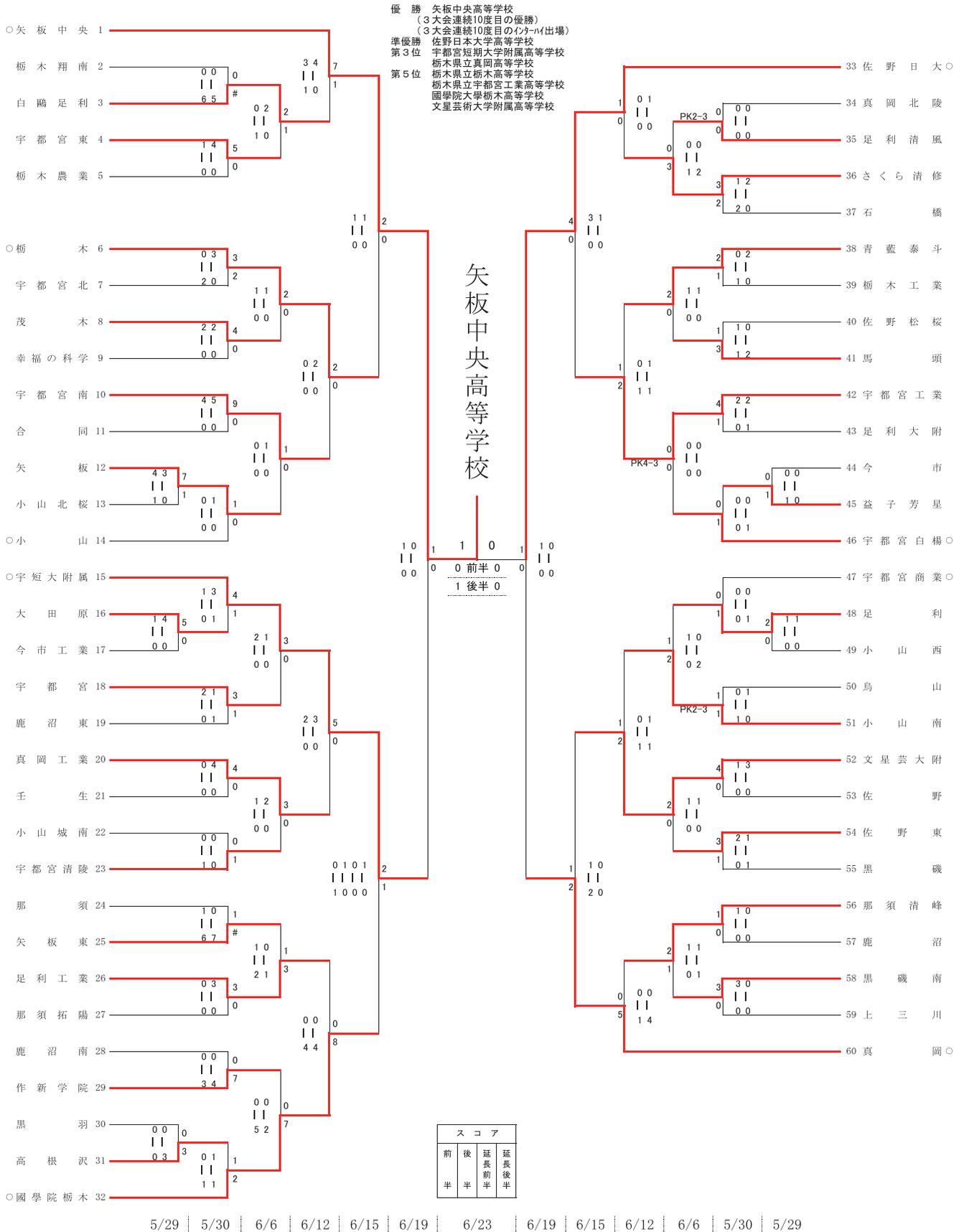
	國學院 栃木B	足利清風	足利	栃木B	足利工業	小山南C	小山B	佐野松桜	壬生	小山城南	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
國學院 栃木B		5 0 1	0 ● 1	3 0 1	1 0 0	11 0 0	15 0 0	4 0 1	4 0 1	--	21	7	0	1	43	5	38	1
足利清風	1 ● 5		1 0 0	0 ● 1	2 0 0	5 0 1	0 ● 2	3 0 0	2 0 1	1 0 0	18	6	0	3	15	10	5	2
足利	1 0 0	0 ● 1		2 0 0	1 Δ 1	4 0 0	0 ● 1	3 0 0	0 Δ 0	6 0 1	17	5	2	2	17	4	13	3
栃木B	1 ● 3	1 0 0	0 ● 2		0 ● 1	2 0 0	1 0 0	0 Δ 0	1 1	3 0 0	14	4	2	3	9	7	2	4
足利工業	0 ● 1	0 ● 2	1 Δ 1	1 0 0		0 ● 3	3 0 1	3 0 0	4 0 2	2 ● 3	13	4	1	4	14	13	1	5
小山南C	0 ● 11	1 ● 5	0 ● 4	0 ● 2	3 0 0		0 ● 5	2 0 1	3 0 1	1 0 0	12	4	0	5	10	29	-19	6
小山B	0 ● 15	2 0 0	1 0 0	0 ● 1	1 ● 3	5 0 0		0 ● 4	1 Δ 1	1 Δ 1	11	3	2	4	11	25	-14	7
佐野松桜	1 ● 4	0 ● 3	0 ● 3	0 Δ 0	0 ● 3	1 ● 2	4 0 0		0 Δ 0	3 0 1	8	2	2	5	9	16	-7	8
壬生	1 ● 4	1 ● 2	0 Δ 0	1 Δ 1	2 ● 4	1 ● 3	1 Δ 1	0 Δ 0		0 Δ 0	5	0	5	4	7	15	-8	9
小山城南	--	0 ● 1	1 ● 6	0 ● 3	3 0 2	0 ● 1	1 Δ 1	1 ● 3	0 Δ 0		5	1	2	5	6	17	-11	10

高円宮U-18リーグ3部f

	栃木シティー U-18	佐野日大C	足利大附B	青藍泰斗	小山北桜	小山南B	栃木工業	足利B	栃木翔南	佐野	足南・栃農 合同	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失差	順位
栃木シティー U-18		3 0 2	4 0 0	4 0 0	9 0 2	2 0 1	2 0 1	5 0 0	5 0 0	10 0 0	2 0 1	30	10	0	0	46	7	39	1
佐野日大C	2 ● 3		5 0 1	4 0 0	11 0 0	5 0 0	3 0 0	4 0 1	7 0 0	10 0 0	10 0 0	27	9	0	1	61	5	56	2
足利大附B	0 ● 4	1 ● 5		3 0 2	4 0 2	2 0 1	1 Δ 1	5 0 0	6 0 0	7 0 1	11 0 1	22	7	1	2	40	17	23	3
青藍泰斗	0 ● 4	0 ● 4	2 ● 3		1 ● 2	2 0 0	5 0 0	3 0 0	2 0 0	6 0 0	6 0 0	18	6	0	4	27	13	14	4
小山北桜	2 ● 9	0 ● 11	2 ● 4	2 0 1		1 0 0	1 ● 6	6 0 0	5 0 0	2 0 1	1 ● 2	15	5	0	5	22	34	-12	5
小山南B	1 ● 2	0 ● 5	1 ● 2	0 ● 2	0 ● 1		2 0 0	1 0 0	0 ● 2	2 0 0	1 0 0	12	4	0	6	8	14	-6	6
栃木工業	1 ● 2	0 ● 3	1 Δ 1	0 ● 5	6 0 1	0 ● 2		1 ● 2	6 0 1	0 ● 1	3 0 1	10	3	1	6	18	19	-1	7
足利B	0 ● 5	1 ● 4	0 ● 5	0 ● 3	0 ● 6	0 ● 1	2 0 1		0 Δ 0	4 0 0	4 Δ 4	8	2	2	6	11	29	-18	8
栃木翔南	0 ● 5	0 ● 7	0 ● 6	0 ● 2	0 ● 5	2 0 0	1 ● 6	0 Δ 0		4 0 0	1 Δ 1	8	2	2	6	8	32	-24	9
佐野	1 ● 10	0 ● 10	1 ● 7	0 ● 6	1 ● 2	0 ● 2	1 ● 0	0 ● 4	0 ● 4		2 0 0	6	2	0	8	5	45	-40	10
足南・栃農 合同	1 ● 2	0 ● 10	1 ● 11	0 ● 6	2 0 1	0 ● 1	1 ● 3	4 Δ 4	1 Δ 1	0 ● 2		5	1	2	7	10	41	-31	11

# 令和3年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会 結果

令和3年5月29・30日, 6月6・12・15・19・23日



## 国体少年男子／ 栃木県トレセンU16 活動報告

監督 只木 章広

2021年度は、3月下旬より選考会を行い、高校2年生となる早生まれ選手と高校1年生の選手の融合を目指し、活動を行いました。

早生まれ選手は、GK高井遥人（真岡）、DF倉持敢太、MF秦野颯（さくら清修）、FW田上羅以伽（宇短附）を選考し、高校1年生は栃木SCU18を中心に、矢板中央、宇工などから総勢27名のラージグループでの活動を行いました。今回のトレセン活動中には、U15日本代表候補合宿に揚石琉生（栃木SCU18）が招集されました。

4、5月のトレセンマッチデーに関東トレセンリーグU16が開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対応のために中止となった。県外のトレセンチームとの公式戦が行うことができない中で、4月には真岡高校、5月には國學院栃木高校とトレセンマッチデーにトレーニングマッチを行うことができました。急遽、トレセンマッチデーの予定が変更になる中で、対戦していただいた両校には迅速な対応していただき、強化に御協力いただいたことに感謝申し上げます。

また、毎週水曜日にトレーニングを行い、守備組織の構築や戦術の浸透を図りました。トレーニングだけではなく、矢板中央高校、ヴェルフェ矢板（トップチーム）には、トレーニングマッチに御協力いただき、チーム作りに取り組みました。6/23には、栃木県グリーンスタジアムメインをナイターでトレーニングに使用させていただき、選手たちに栃木の代表としての自覚や責任を持って戦うことの意義を再確認させていただきました。

国民体育大会関東ブロック大会直前には、選手を派遣していただいている所属チーム、学校に御理解をいただき、平日の日中に強化練習を行わせていただき、大会直前のチームコンセプトの確認を行いました。この際も、栃木県グリーンスタジアムメインや試合会場となる真岡市総合運動公園陸上競技場を使用させていただき、強化に当たることができました。

7月11日に真岡市総合運動公園陸上競技場で開催された国民体育大会関東ブロック大会では、埼玉県と対戦し、0-1で敗退となり、残念ながら出場権を獲得することができませんでした。

サッカーの本質を追求し、個だけではなく、組織で闘う中で勝機を見出すことを目指しましたが、後半35分に左コーナーキックからのヘディングシュートをキーパーが弾き、バーに当たってこぼれたところを押し込まれ、失点してしまい、それが決勝点となり、敗退となりました。

しかしながら、栃木の時間帯もあり、得点を奪うことができる決定機がなかったわけでもなく、その決定力の差が勝敗を分けたことになりました。積極的に前線から守備を行いながら、ボールを奪い、ゴールを目指していく中で、共通理解をして、選手間で連携を図り、守備組織の構築を進めることができました。ただ、直前の強化練習の中でも、相手の隙を突き、エゴイスティックに得点にこだわることなどをトレーニングの中で取り入れましたが、その部分がまだまだ課題であったと感じる試合内容となってしまいました。得点にこだわり、個で打開する選手の必要性を強く感じました。そして、個で打開できる選手の育成を行いながら、それと同時に、どのようにプレーしたら、ボールを奪うことができ、相手の虚をつくことができるのかなど状況判断を行い、考え、実行できる選手を育てることも重要であると感じました。

今回の活動では、新型コロナウイルス感染症対応ということで、栃木県開催であったこともあり、試合当日まで、選手27名のラージグループでの活動をさせていただき、それぞれの選手の育成を図りながら、チーム作りを行うことができました。栃木の代表として闘うことの意義について、橋本健一副会長や川上栄二技術委員長など多くの方々から、選手に直接話していただく機会を作ることができました。そして、直前までラージグループで活動できたことで、試合に出場した選手は、登録外になり試合に出れない選手の想いを背負い闘う様子が見られ、たくましく成長する姿を見せてくれていました。今後の選手たちの活躍に期待したいと思います。



そして、来年度のとちぎ国体に向けて、栃木スタイルの追求に励み、今回の成果と課題を教訓に強化に努めていきたいと思ひます。今回の活動に際しては、関係各所いろいろな方々に御理解と協力を頂き、誠にありがとうございました。



大会3日目の決勝に進出したのは、塩南地区のヴェルフェ矢板U-12・fleurと宇河地区の栃木サッカークラブU-12でした。ヴェルフェ矢板は、2015年の第1回大会を制しています。一方の栃木サッカークラブは、2017・2018年と2年連続で優勝しています。ともに高い実力をもつ2チームでの決勝となりました。

試合は、1点を争う接戦となりました。前半わずかなチャンスを得点に結びつけ、1-0としたヴェルフェ矢板U-12・fleurが優勝を収めました。

なお、上位チームが参加を予定していたフジパンCUP関東U-12サッカー大会 in 茨城（8月28日・29日）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となりました。



＜優勝 ヴェルフェ矢板U-12・fleur＞



＜準優勝 栃木サッカークラブU-12＞

**第4種委員会・少年連盟**

**第7回QUALIER CUP栃木県  
U-12 サッカー大会**

4種委員会 記録広報委員長  
平野 康男

6月13日・20日・26日の3日間、下野市の大松山運動公園陸上競技場、矢板市のヴェルフェドリームフィールドなど県内6会場において、関東大会への出場権をかけて64チームが熱戦を繰り広げました。



＜第3位 ともぞうサッカークラブ＞



＜第3位 ヴェルフェ矢板U-12＞

## JFAバーモントカップ 第31回全日本U-12フットサル 選手権大会栃木県大会



7月3日、足利市の足利市民体育館で栃木県大会が行われ、新型コロナウイルス感染症対策として、無観客での実施となりました。県内各地区から12チームが参加した本大会では、選手たちが勝利を目指し躍動しました。

準決勝に勝ち上がったのは、ともぞうサッカークラブ（宇河）、FE. アトレチコ佐野（両毛）、MORANGO栃木フットボールクラブU12、FC VALON（下都賀）でした。

決勝は、MORANGO栃木フットボールクラブU

12 対 ともぞうサッカークラブとなり、激しい攻防の末、高い得点力を発揮したともぞうサッカークラブが優勝、全国大会への切符を手に入れました。

なお、優勝したともぞうサッカークラブが参加を予定していたバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権（駒沢 8月27日・28日・29日）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となりました。



＜優勝 ともぞうサッカークラブ＞



＜準優勝 MORANGO栃木フットボールクラブU12＞

## 『tonan』第10回北関東（関東外環） U-12サッカー大会inGUNMA

8月7日・8日、北関東大会が開催されました。大会は、群馬・栃木・茨城・山梨・新潟の5県から、22チームが参加して群馬県伊勢崎市にて行われました。本県からは、ヴェルフェ矢板U-12（塩南）、FC VALON、MORANGO栃木フットボールクラブU12（下都賀）、アトレチコ佐野（両毛）、ともぞうサッカークラブ（宇河）の5チームが参加しました。

厳しい暑さの中、1位パートでヴェルフェ矢板U-12が優勝、3位パートでFC VALONが優勝、MORANGO栃木フットボールクラブU12が4位と健闘しました。

## 女子委員会・連盟

9月開幕のWEリーグ  
本県関係8選手が参戦

東京五輪の興奮冷めやらぬ9月、国内初の日本女子サッカーリーグが開幕しました。リーグは正式名称を日本女子プロサッカーリーグとし、略称は女性の活躍を意味する「Women Empowerment」の頭文字を取って「WEリーグ」と名付けられました。11チームが参戦する中で、残念ながら本県拠点チームはありませんが、栃木でサッカーの技を磨きトップリーグへと羽ばたいた8選手がリーグの初陣に臨んでいます。

WEリーグは「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」ことを理念とし、「世界一の女子サッカーを」「世界一アクティブな女性のコミュニティへ」「世界一のリーグ価値を」の3点をビジョンに運営されていきます。初代のチェア（代表理事）には日本女子サッカー連盟の事務局長などを務めた岡島喜久子氏が就任し、宇都宮市出身の手塚貴子氏らも理事に名を連ねています。

リーグは11チームによるホーム&アウェイ方式、2回戦総当りで順位を争います。各チーム22節を戦い、総試合数は110試合。9月12日に開幕し、来年の5月下旬まで戦いを続けます。外国籍選手は5人までエントリーが許され、警告累積は4回となった時点で直近の1試合が出場停止となります。当面は降格なしのリーグとなり、審査を通ったチームがリーグに加わる「エクспанション型」で運営されています。優勝チームへの賞金は2000万円です。また奇数チームでのリーグとなるため、その節に試合がないチームは「WE ACTION DAY（理念推進日）」として、多様性社会の実現に向けた活動を行う日に定められています。

参戦チームと主な本県関係選手を次の通りとなります。

- 大宮アルディージャVENTUS  
（埼玉県／NACK5スタジアム大宮）  
リーグ創設に当たって新たに結成。DF鮫島彩選手（宇都宮市出身）、井上綾香選手（さくら市出身）、村上真帆選手（栃木SCレディース出身）が所属。
- ちふれASエルフィン埼玉  
（埼玉県／熊谷スポーツ文化公園陸上競技場）  
ASエルフィン埼玉が前身。本県関係選手なし。
- ジェフユナイテッド市原・千葉レディース  
（千葉県／フクダ電子アリーナ）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。本県関係選手なし。
- 日テレ・東京ヴェルディベレーザ  
（東京都／味の素フィールド西が丘）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。本県関係選手なし。
- ノジマステラ神奈川相模原  
（神奈川県／相模原ギオンスタジアム）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。DF鈴木綾華選手（野木町出身）が所属。
- AC長野パルセイロ・レディース  
（長野県／長野Uスタジアム）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。MF鈴木日菜子選手（宇都宮市出身）が所属。
- アルビレックス新潟レディース  
（新潟県／デンカビッグスワンスタジアム）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。MF沼尾圭都選手（日光市出身）が所属。
- INAC神戸レオネッサ  
（兵庫県／ノエビアスタジアム神戸）  
なでしこリーグに参戦していた同名チームが前身。本県関係選手なし。
- サンフレッチェ広島レジーナ  
（広島県／広島広域公園第一球技場）  
リーグ創設に当たって新たに結成。本県関係選手なし。
- マイナビ仙台レディース  
（宮城県／ユアテックスタジアム仙台）  
ベガルタ仙台レディースが前身。MF成田恵理選手（宇都宮文星女子高出身）が所属。
- 三菱重工浦和レッズレディース  
（埼玉県／浦和駒場スタジアム）  
浦和レッドダイヤモンドレディースが前身。  
FW安藤梢選手（宇都宮市出身）が所属。



## クラブユース

2021年 第36回日本クラブユース  
サッカー選手権 (U-15) 大会栃木県予選ともぞうサッカークラブジュニアユース  
秋吉

ともぞうサッカークラブジュニアユースとして、念願の初優勝を飾ることができました。大会一回戦から決勝戦まで、全て厳しい試合でした。勝ち進む中で、大会を通して選手達の成長を感じました。辛く厳しい状況の中でも、諦めることなく、自分たちを信じてプレーする事が出来るようになりました。常日頃からの練習に取り組む姿勢や、大会に向ける強い気持ちも優勝の結果に繋がったと思います。

様々な多くのイベントや大会が、延期や中止になり、悔しい思いをした人達がいます。

このような大変な状況の中で、無事に大会を優勝という最高の結果で終える事が出来たことも、数多くの支えてくれていた人たちの存在があったからです。

多くの大会関係者の方々、いつも支えてサポートしてくれている保護者の方々に、感謝申し上げます。

選手達全員がその事に気付き、いつも感謝の気持ちを持ってこれかも楽しんでサッカーをして欲しいと思います。サッカー選手として、一人の人間として、魅力ある人に成長してください。

大会関係者の皆様、選手達が安全にサッカーを行える環境を提供して頂きありがとうございました。



シニア委員会・連盟

2021年度 JFA第9回全日本O-40サッカー大会関東地区予選会 試合結果

【試合会場】 押原公園人工芝グラウンド 押原公園天然芝グラウンド  
 【試合時間】 予選リーグ(①~⑫):50分(25分-10分-25分) 順位決定戦(⑬~⑯):50分(25分-10分-25分)+ PK戦

- 第1位: FC西武台【埼玉県】  
 第2位: C. A. REAL. TOKYO. De. Cuarenta【東京都】  
 第3位: FC船橋【千葉県】  
 ※上位3チームは2021年度 JFA第9回全日本O-40サッカー大会出場  
 第4位: Meteor相模原【神奈川県】  
 第5位: 関南サッカークラブ グランデ【群馬県】  
 第6位: ヴェルフェ シニア【栃木県】  
 第7位: 山梨マスターズ【山梨県】  
 第8位: 鹿島40雀【茨城県】

試合日	マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対 戦 カ ー ド										備考欄	
				チーム名	都県名	ポイント	計	前後	VS	前後	計	ポイント	チーム名		都県名
【予選リーグ】															
6/26 (土)	①	人工芝	10:00	Meteor相模原	神奈川県	1	1	0	VS	1	2	0	レアル東京40	東京都	A組予選リーグ
	②	天然芝	10:00	山梨マスターズ	山梨県	0	0	0	VS	0	1	0	関南サッカークラブ グランデ	群馬県	A組予選リーグ
	③	人工芝	11:35	FC西武台	埼玉県	0	3	2	VS	0	0	0	鹿島40雀	茨城県	B組予選リーグ
	④	天然芝	11:35	ヴェルフェ シニア	栃木県	1	1	0	VS	0	0	0	FC船橋	千葉県	B組予選リーグ
	⑤	人工芝	13:10	Meteor相模原	神奈川県	0	2	1	VS	1	1	1	山梨マスターズ	山梨県	A組予選リーグ
	⑥	天然芝	13:10	レアル東京40	東京都	0	7	3	VS	0	0	0	関南サッカークラブ グランデ	群馬県	A組予選リーグ
	⑦	人工芝	14:45	FC西武台	埼玉県	0	4	2	VS	0	0	0	ヴェルフェ シニア	栃木県	B組予選リーグ
	⑧	天然芝	14:45	鹿島40雀	茨城県	0	1	1	VS	3	3	0	FC船橋	千葉県	B組予選リーグ
6/27 (日)	⑨	人工芝	9:30	レアル東京40	東京都	2	0	0	VS	0	1	0	山梨マスターズ	山梨県	A組予選リーグ
	⑩	天然芝	9:30	Meteor相模原	神奈川県	0	0	0	VS	0	0	1	関南サッカークラブ グランデ	群馬県	B組予選リーグ
	⑪	人工芝	11:05	鹿島40雀	茨城県	0	0	0	VS	1	2	0	ヴェルフェ シニア	栃木県	A組予選リーグ
	⑫	天然芝	11:05	FC西武台	埼玉県	1	0	0	VS	1	2	0	FC船橋	千葉県	B組予選リーグ
【順位決定戦】															
⑬	人工芝	13:20	山梨マスターズ	A4位		4	2	VS	0	0	0	鹿島40雀	B4位	7・8位決定戦	
⑭	天然芝	13:20	関南サッカークラブ グランデ	A3位		2	2	VS	0	0	0	ヴェルフェ シニア	B3位	5・6位決定戦	
⑮	人工芝	14:55	Meteor相模原	A2位		0	0	VS	0	1	1	FC船橋	B2位	3・4位決定戦	
⑯	天然芝	14:55	レアル東京40	A1位		1	1	VS	1	2	1	FC西武台	B1位	1・2位決定戦	

【リーグ戦績表】

【A組】					※勝ち(O):3点 分け(△):1点 負け(●):0点												
	Meteor相模原 神奈川県	レアル東京40 東京都	山梨マスターズ 山梨県	関南サッカークラブ グランデ 群馬県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ポイント	順位			
1	Meteor相模原 神奈川県	●	○	△	3	4	1	1	1	3	3	0	1	2			
2	レアル東京40 東京都	○	●	○	3	6	2	0	1	9	2	7	2	1			
3	山梨マスターズ 山梨県	●	○	●	3	3	1	0	2	2	3	-1	1	4			
4	関南サッカークラブ グランデ 群馬県	△	○	○	3	4	1	1	1	7	-6	1	3				
【B組】					試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ポイント	順位			
1	FC西武台 埼玉県	○	○	●	3	6	2	0	1	7	2	5	1	1			
2	鹿島40雀 茨城県	●	●	●	3	0	0	0	3	1	8	-7	0	4			
3	ヴェルフェ シニア 栃木県	●	○	○	3	6	2	0	1	3	4	-1	1	3			
4	FC船橋 千葉県	○	○	●	3	6	2	0	1	5	2	3	0	2			

# JFA第20回O-50サッカー大会関東予選大会 結果表

【試合会場】市原スポレクパーク(A:道路側・C:左奥(人工芝側))

【試合時間】予選リーグ(①~⑫):50分(25分-10分-25分) □ 順位決定戦(⑬~⑯):40分(20分-10分-20分)+(延長)PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード				備考欄
				対戦相手	スコア	対戦相手	スコア	
4/24 (土)	①	A面	10:30	四十雀クラブ東京50 東京都	2 0 - 0	0	横浜シニア 神奈川県	A組予選リーグ
	②	C面	10:30	FC浦和シニア 埼玉県	7 2 - 0	0	宇都宮FCファミリー 栃木県	A組予選リーグ
	③	A面	11:45	ドリーム水戸FCシニア 茨城県	0 0 - 1	1	FC大泉50 群馬県	B組予選リーグ
	④	C面	11:45	FC船橋50 千葉県	1 0 - 0	0	山梨マスターズレジェンド 山梨県	B組予選リーグ
	⑤	A面	13:00	四十雀クラブ東京50 東京都	0 0 - 0	0	FC浦和シニア 埼玉県	A組予選リーグ
	⑥	C面	13:00	横浜シニア 神奈川県	6 0 - 0	0	宇都宮FCファミリー 栃木県	A組予選リーグ
	⑦	A面	14:15	ドリーム水戸FCシニア 茨城県	0 0 - 0	1	FC船橋50 千葉県	B組予選リーグ
	⑧	C面	14:15	FC大泉50 群馬県	0 0 - 0	1	山梨マスターズレジェンド 山梨県	B組予選リーグ
4/25 (日)	⑨	A面	9:45	横浜シニア 神奈川県	2 1 - 0	0	FC浦和シニア 埼玉県	A組予選リーグ
	⑩	C面	9:45	FC大泉50 群馬県	0 0 - 0	1	FC船橋50 千葉県	B組予選リーグ
	⑪	A面	11:00	四十雀クラブ東京50 東京都	4 2 - 0	0	宇都宮FCファミリー 栃木県	A組予選リーグ
	⑫	C面	11:00	ドリーム水戸FCシニア 茨城県	1 0 - 2	3	山梨マスターズレジェンド 山梨県	B組予選リーグ
	⑬	A面	12:30	宇都宮FCファミリー A4位	2 1 - 4	7	ドリーム水戸FCシニア B4位	7・8位決定戦
	⑭	C面	12:30	浦和シニア A3位	1 0 - 0	0	大泉50 B3位	5・6位決定戦
	⑮	A面	13:35	横浜シニア A2位	0 0 - 0	2	山梨マスターズレジェンド B2位	3位決定戦
	⑯	C面	13:35	四十雀クラブ東京50 A1位	1 1 - 0	0	FC船橋50 B1位	決勝戦

※ 延長・PK戦で試合が遅れた時、全試合終了後、15分後の試合開始となります。

# JFA第20回O-60サッカー大会関東予選大会 結果表

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】		四十雀クラブ東京50 東京都	横浜シニア 神奈川県	FC浦和シニア 埼玉県	宇都宮FCファミリー 栃木県	試合数	勝点	勝数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	順 位 FP
1	四十雀クラブ東京50 東京都		2 - 0	0 - 0	4 - 0	3	7	2	1		6	0	6	1位 0
2	横浜シニア 神奈川県	0 - 2		2 - 0	6 - 0	3	6	2		1	8	2	6	2位 -2
3	FC浦和シニア 埼玉県	0 - 0	0 - 2		7 - 0	3	4	1	1	1	7	2	5	3位 -2
4	宇都宮FCファミリー 栃木県	0 - 4	0 - 6	0 - 7		3	0			3	0	17	-17	4位 -4

予選リーグ順位決定方法 (勝ち点・得失・総得点・当該チーム結果・フェアプレーポイント:警告-1・1発退場-4・警告2回退場-3・警告後1発退場-5)

【B組】		ドリーム水戸FCシニア 茨城県	FC大泉50 群馬県	FC船橋50 千葉県	山梨マスターズレジェンド 山梨県	試合数	勝点	勝数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	順 位 FP
1	ドリーム水戸FCシニア 茨城県		0 - 1	0 - 1	1 - 3	3	0			3	1	5	-4	4位 -1
2	FC大泉50 群馬県	1 - 0		0 - 1	0 - 1	3	3	1		2	1	2	-1	3位 0
3	FC船橋50 千葉県	1 - 0	1 - 0		1 - 0	3	9	3		0	3	0	3	1位 -1
4	山梨マスターズレジェンド 山梨県	3 - 1	1 - 0	0 - 1		3	6	2		1	4	2	2	2位 -2

【順位決定戦】 ※上位3チーム(JFA全日本O-50)全国大会へ出場です。

【決勝戦】	四十雀クラブ東京50 東京都	A1位	1	0 - 0	0	FC船橋50 千葉県	B1位	優勝	四十雀クラブ東京
				1 - 0				準優勝	FC船橋50
【3位決定戦】	横浜シニア50 神奈川県	A2位	0	0 - 2	2	山梨マスターズレジェンド 山梨県	B2位	第3位	山梨マスターズレジェンド
				0 - 0				第4位	横浜シニア50
【5位決定戦】	FC浦和シニア 埼玉県	A3位	1	1 - 0	0	FC大泉50 群馬県	B3位	第5位	FC浦和シニア
				0 - 0				第6位	FC大泉50
【7位決定戦】	宇都宮FCファミリー 栃木県	A4位	2	1 - 0	0	ドリーム水戸FCシニア 茨城県	B4位	第7位	ドリーム水戸FCシニア
				1 - 0				第8位	宇都宮FCファミリー

## フットサル委員会

全日本女子フットサル栃木大会  
13年ぶり「地元関東」懸け熱戦

JFA第18回全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会が7月25日、8月1日と日環アリーナ栃木サブコートで行われました。国内女子フットサル界最高峰の大会で、勝ち上がれば全国リーグチームとの対戦などもあります。関東大会は例年各都県持ち回りで行われていますが、開催都県には「開催地枠」が与えられ、その都県からは県大会優勝枠と2チームが出場できます。前回の本県開催は2008年で当時はアマレーロ／峰FCと宇都宮中央女子高が出場しました。その後、持ち回り都県の順番見直しがあり、関東大会が本県に巡ってきたのが13年後の今年でした。県大会を振り返りました。

13年前の県大会は、当時、実力的に頭一つ抜けていたアマレーロ／峰FCが圧勝で突破。2位争いは高校部活動からの参戦となった宇都宮中央女子高が、宇都宮チェルトFCやブラジニア・レディースといった社会人クラブチームを破り関東大会初出場を果たしました。

地元開催の関東大会は特別なもので、関係者は当然、各都県を1周しての8年後の地元開催を期待していました。しかし近年、フットサルのカテゴリーが増え、それに伴って関東大会も増加したことから関東フットサル委員会・連盟内で持ち回り都県の順番見直しが行われ、本県での関東開催は13年を待つことになりました。

関東大会への2枚の切符が与えられる今夏の県大会には、昨年この大会を制している高校部活動の大田原女子高をはじめ、アマレーロ／峰FC、宇都宮市泉が丘中、北那須リンダニーニャ、ラッシュ高根沢、大田原女子高、ブレジニア・レディース、足利・両毛ローザFCの7チームが参戦しました。

大会は予選リーグとなる1次ラウンド、トーナメントとなる決勝ラウンドで争われました。Aブロックはアマレーロ／峰FCと北那須リンダニーニャが、Bブロックはブラジニア・レディースと大田原女子高が決勝ラウンドに進出。4強の争いはアマレーロ／峰FCが5-1で大田原女子高を、ブラジニア・レディースが4-1で北那須リンダニーニャを下し決勝へ駒を進めました。決勝はブラジニア・レディースが6-0でアマレーロ／峰FCを下し2年ぶり2度目の優勝を飾りました。アマレーロ／峰FCは優勝した3年前以来の関東切符を手に入れました。

関東大会は9月に日環アリーナ栃木で開催予定で

した。しかしその後、新型コロナウイルス感染拡大を受け延期。12月、来年1月あたりでの開催を目指して関係者が調整を進めています。県大会から関東大会まで長期間空いての一戦となりますが、13年越しの夢が叶ったブラジニア・レディースと、過去にはこの大会で全国準優勝まで上り詰めているアマレーロ／峰FCの健闘を期待したいと思います。最後に両チームの代表者に県大会を振り返ってもらいました。

ブラジニア・レディース 福島史尊監督の話 コロナ禍で大会を運営していただいた関係者の皆様、ありがとうございました。今大会は2日間で5試合ととても過密なスケジュールで、さらにけが人なども出るなどして非常に厳しい大会でした。しかし関東大会出場が懸った準決勝は、チームの共通認識である「エース小倉杏梨沙にボールを集める」ということを徹底し結果をつかみ取ることができました。



▲優勝したブラジニア・レディース

アマレーロ／峰FC 竹本亮子主将の話 新型コロナ禍で公式戦ができて、関係者の皆様にはとても感謝しています。目標は「関東大会出場」だったので、そこにたどり着くことができ良かったです。結果に関しては満足しています。関東大会はどうなるか分からないが、しっかり準備をして待ちたいと思います。峰FCらしく、楽しみながら1勝できるよう頑張りたいです。



▲準優勝のアマレーロ／峰FC

## 新型コロナ禍で2シーズン目 公式戦は進行中

2021年シーズンも半ばに差し掛かりました。公式戦の全てが体育館で行うフットサルは、新型コロナウイルスに対応する県のガイドラインはもちろん、その体育館の利用規定などを遵守しながら大会運営をしています。宮川進フットサル委員長が中心になり、きめ細かく感染対策を定め、現在も公式戦が進行しています。

男女の栃木県フットサルリーグは前期リーグのみの実施となりましたが、無事、順位づけまではできそうです。男女の全日本選手権栃木大会や、大学大会、U-18大会も無事、県大会開催しました。唯一、第5波の緊急事態宣言中にかかったU-15大会は苦渋の決断で中止となりました。

### グラスルーツ委員会

#### グラスルーツ委員会より 委員長挨拶

グラスルーツ委員会委員長  
手塚貴子

6月23日に開催されました県協会総会にて、グラスルーツ委員長を拝命いたしました、手塚貴子です。グラスルーツ委員会は、「JFAグラスルーツ宣言」の趣旨に基づき、だれもが、いつでも、どこでもサッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努め、サッカーに触れるすべての人々を支え、サッカー、そしてスポーツが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目的とし、主に以下の事業を行います。



- ◎各種フェスティバルや巡回指導等、普及関連事業の企画・運営
- ◎専門人材（キッズインストラクター・キッズリーダー等）の発掘・養成
- ◎普及関連の講習会・研修会
- ◎サッカーの活動を通じた社会貢献
- ◎協会登録に関する継続的な調査・研究

◎その他、本委員会の目的達成に必要な事業

グラスルーツ委員会は、各種別・委員会から選出された委員とグラスルーツ委員会内に置くキッズ部会、女子部会、指導普及部会で構成され、各種別間の連携強化を図り、サッカーと出会い継続できるプレー環境を整えていきたいと思っています。更には指導者や審判員、大会運営などに関わる人材を増やすことにも繋げていきたいと思っています。

昨年から続いているコロナ禍で、思うような普及活動が実施できていない状況ではありますが、一歩ずつ歩みを止めずに進んでいきます。各種別や委員会等からのアイデアも吸い上げて県全体でグラスルーツを考え、栃木県のサッカーを盛り上げていきたいと思ひます。

## 2021年グラスルーツ委員会 キッズ部会発足

キッズ部会副部長 大澤 寛之

#### ◇グラスルーツ委員会キッズ部会長挨拶

今年度よりキッズ部会部会長になりました、高木智弥です。コロナ禍で制限がありますが、子供たちの笑顔や笑いが聞こえてくるよう、委員会の中心となり活動を行っていききたいと思いますので、今後もキッズ部会を宜しく願ひします。

#### ◇JFA茂木キッズフェスティバルを開催

5月に並松運動公園にてJFAキッズフェスティバルを開催できました。コロナ禍で参加者が集まるか不安の中、予想以上の参加をいただきました。1・2年生以下の初心者向けの親子で開催ということもあり、なるべく他の親子との接触は避け、飽きずに楽しくできるシュートやドリブル・キックターゲットなどのセッションを行いました。いつもスタッフの確保が難しいのですが、今回はグラスルーツ委員会で一緒になった障害者サッカー担当のスタッフにも参加してもらえ、一緒に活動できましたので、何とかセッションを減らすことなく実施できました。

参加者から『運動が苦手な子ですが、親子での参加で、ほかの子と競うこともなかったので、親子共々楽しく参加できました。近くで子供の運動している笑顔が見られました。次回も参加したいです。』などのうれしい感想もいただきました。

フェスティバルの活動は県内どこでも実施できますので、今年度から決定する地区のキッズ部会員にご相談ください。



この後もフェスティバルを計画しましたが緊急事態宣言の為、中止となりました。

今後も何とか小規模でも普及活動が出来るよう努めます。



#### ◇女子部会との連携

女子部会で、なでしこジャパンのレガシイプログラムの一環で、県内初の女性のみのキッズリーダー講習会・午後のフェスティバルのサポートをしました。いままでもキッズ委員会で女子のキッズの活動のサポートを行っていましたが、グラスルーツ委員会が発足してから初の女子部会との連携の活動となりました。



午前中は、指導普及部会を中心に講義・実技の研修を行い、子供たちへの声のかけ方・かわり方などを実際に体験してもらいました。

午後からは経験者の子供たちと一緒にセッション・ゲームを行いました。

県協会として全種別で連携を図りキッズや女子を中心に普及活動に取り組み、サッカーを楽しむ

競技人口を増やし、それを登録につなげていくことを大きな目的として、今後もグラスルーツ(草の根 普及)の活動を実施いたしますので、皆さまのご協力をお待ちしております。

ご意見・ご要望などもございましたら協会までお送りいただければ幸いです。

## グラスルーツ委員会女子部会より

グラスルーツ委員会女子部会長  
大森美幸

6月13日にカンセキスタジアムとちぎでなでしこジャパンの国際親善試合がありました。この貴重な機会を逃さずにレガシイプログラムとして、5月末からウォーキングフットボールやグラスルーツフェスティバルを4回（1回は雨天中止）、なでしこジャパンOGを講師に招いての「夢授業」を小・中学校4校（オンライン3校・対面1校）、なでしこジャパン選手とのWEB交流会（県トレセン選手対象）などを企画しました。今回は未登録の小学生女子から大人女子、ファミリーでも参加できるように様々な工夫をしてサッカーに触れてもらう機会を多くしました。また、女性対象のキッズリーダー養成講習会を企画し、グラスルーツ委員会指導普及部会主導で講習会を実施していただきました。

今後、グラスルーツ委員会をより良い委員会にする為、他種別との繋がりを大切にしながら、どの種別でも登録拡大に繋がるように、女子から発信をし、競技人口だけではなく女性指導者数も増えるような企画を目標にしていきたいと思えます。

以下は、フェスティバル関連レガシイプログラムの報告となります。

#### ① 【ファミリーウォーキングフットボール】

グラスルーツ委員会主催としては初の「ファミリーウォーキングフットボール」を5月30日に開催しました。県スポーツ振興課の協力も得て約40

名の参加者が集まりました。初めは戸惑いながらも時間が経つにつれて自然に笑顔が増え、サッカー未経験者と経験者が年代を気にせず一緒にのピッチで対戦できるとても素晴らしい光景が見られました。



「ファミリーウォーキングフットボール」

② 【ガールズフェスティバル】

6月6日、4種登録の女子限定でグラスルーツガールズフェスティバルを開催。42名の参加選手は普段男の子とプレーをしている選手が多いので、女子だけでサッカーが出来ることを体感してもらいました。また当日、女性対象キッズリーダー講習会を受講した14名の方々にはフェスティバルではスタッフとして参加していただきました。このような形式で講習会とフェスティバルを実施することにより、現役選手でも指導に関わる機会を増やすことで将来的に女性指導者の増加に繋がって行くことを期待しています。



「ガールズフェスティバル」

③ 【グラスルーツフェスティバル & ウォーキングフットボール】

6月13日なでしこジャパン試合当時に「小学生未登録者」と「中学生以上のウォーキングフットボール」を合同開催。合計81名の方が参加をしてくれました。メインのフェスティバルの設定で、なでしこOGゲストの参加と試合観戦の効果もあり、とても盛り上がりました。また、6月6日に指導を経験した方々が再度指導スタッフとして参加してくれたので、運営もスムーズにできたと思います。



「グラスルーツフェスティバル & ウォーキングフットボール」

## 技術強化委員会

## 国体女子関東ブロック大会結果及び活動報告

栃木県国体女子チーム  
監督 榎 剛

## 1 大会について

三重国体の予選として、栃木県矢板市で国体関東ブロック大会が行われた。

## 2 大会結果

1回戦で東京と対戦した。結果は以下のとおりである。

日時：令和3(2021)年8月21日(土) 9:30キックオフ (35分ハーフ)

会場：緑新スタジアムYAITA (矢板運動公園陸上競技場)

栃木 0-1 東京 1回戦敗退 予選突破はならず。

※三重国体は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。

以下に、準備期間、大会当日について振り返るとともに、成果と課題をまとめた。

## 1 準備期間

## (1) コーチングスタッフ選定

- ・監督の榎が選定し、本人に連絡し、受諾してもらった。

## (2) チーム(選手)編成

○選手は県内女子社会人選手(大学生含む)及び県内高校生で編成した。

○選考会

- ・令和3(2021)年3月21日(日)に県総合運動公園サッカー場にて、雨天の中行なった。

社会人：宇都宮セレソンSC, 河内21ジュベニールの選手

高校生：宇都宮短大付属高等学校、宇都宮女子高等学校、大田原女子高等学校の選手

宇都宮セレソン21, 河内21ジュベニールの選手

この内、33名を選出し、ラージグループとした。

## (3) 活動

○練習会及びトレーニングマッチ

国体関東ブロック大会まで、15回の練習会及びトレーニングマッチを行った。

今回は平日トレーニングを月1回、トレセンマッチデーに合わせてトレーニングマッチを行った。

① 3月21日(日)選考会	県総合運動公園サッカー場	12:00~17:00
② 4月19日(月)練習会1	とちぎフットボールセンター	19:00~20:45
③ 4月25日(日)練習会2	県総合運動公園サッカー場	12:00~17:00
④ 5月23日(日)TRM1	県総合運動公園サッカー場 対宇都宮商業高等学校(男子) 試合分析研修(J2 栃木SC対松本山雅) カンセキスタジアム	9:45~12:45 14:00~16:00
⑤ 6月21日(月)練習会3	とちぎフットボールセンター	19:00~20:45
⑥ 6月26日(土)TRM2	対三菱重工浦和レッズレディース レッズランド	
⑦ 7月5日(月)練習会4	とちぎフットボールセンター	19:00~20:45
⑧ 7月11日(日)TRM3	対鳥山高等学校 とちぎフットボールセンター	14:00~17:00
⑨ 7月23日(金)練習会5	ヴェルフエドリームフィールド	10:00~16:00
⑩ 7月24日(土)練習会6	ヴェルフエドリームフィールド	10:00~12:00
⑪ 8月9日(月)TRM4	対矢板SCU-15 矢板運動公園サッカー場	9:30~14:00
⑫ 8月15日(日)TRM5	対矢板SCU-15 とちぎフットボールセンター	9:30~15:00

⑬ 8月17日(火)練習会 7	とちぎフットボールセンター	19:00~20:45
⑭ 8月19日(木)練習会 8	緑新スタジアムYAITA	14:00~17:00
⑮ 8月20日(金)練習会 9	緑新スタジアムYAITA	9:00~11:00
ミーティング	とちぎフットボールセンター	19:15~20:00

## 2 関東ブロック大会 対東京戦（0-1）敗退

### (1) アップ前ミーティング

チーム用のテントは用意されたが、そこは女子更衣室的になっているため（国体はこういう仕様がが多い）、その外側の壁面があるところでミーティングを行った。そこで、相手の予想フォーメーションを書いた模造紙を張り、対東京対策、ゲームプランを話した。ちなみに予想フォーメーションは事前に入手した東京のメンバー表を元にインターネットで、ポジション、特徴、目標とする選手などから割り出した。

最後は士気を高め、ウォームアップに向かわせた。

### (2) ウォームアップ

前々日（8月19日）、前日（8月20日）に試合時と同じタイムスケジュールとピッチ外・ピッチ内アップを行い、そこで出た課題を微修正しながら、当日のウォームアップを行ったので、スムーズに良いアップができた。選手の振り返りからもタイムスケジュールと場の設定について良かった旨の感想が多かった。

### (3) 試合前ミーティング

試合用テント内ベンチで行った。アップ前ミーティング時に伝えた予想フォーメーションから提出された相手のメンバー表と照らし合わせ、1名のみ違っていたのと、相手のアップ時にディフェンスラインのシャドートレーニングをしていた時に、ディフェンスラインの並びがわかったので、それを伝えた。

### (4) コンセプト及びゲームプラン

#### ① コンセプト

「堅守」で簡単に失点しないサッカー。

全員が守備意識を持ち、ハードワークできる戦えるチーム。

システムは1 (GK) - 5 - 4 - 1

特にDFは、3人のセンターバックが上背があり、対人に強い。両サイドバックはスプリント力がある選手を配した。

#### ② ゲームプラン

ゲームプランは、「最初から全力、立ち上がりは前から追うこと、相手DF背後を取りに行くこと」「前半0-0折り返しを目指す」「でも、0-1や0-2も問題なし」と伝え、最後は富永主将の掛け声で士気を高めて、送り出した。掛け声はよそよそしさがないように、特に1週間前から練習させた。富永主将、岡村副主将、佐藤副主将中心によくまとまり、試合前日には、富永主将から選手のみ集めて話させてもらいたい旨の話があり、チームとして自立や自発性が見られ、士気が上がる雰囲気の中でピッチに送り出せた。

選手振り返りからもこのことについての良い感想があった。

### (5) 前半立ち上がり

ゲームプランとおり、相手ディフェンダーの背後を狙い、コーナーフラッグ近辺までボールを運び、相手陣内でプレーできた。ファーストシュートも栃木だった。守備も前線からの追いかけ、ディフェンスラインの集中力も高く、良い立ち上がりにすることができた。

### (6) 前半 中盤戦

徐々に東京がボランチを使いながら、2人のフォワード動きやサイドを効果的に使おうとし、ポゼッション率を高めた。栃木は東京のサイドバックとサイドハーフの関係性（サイドハーフが内側のポジションをとり、サイドバックが外側スペースを活用する）に戸惑うが、ベンチからのコーチングで修正することができた。

### (7) 前半 終盤戦

- ・ 飲水タイム後も集中力は保ち、ディフェンスラインも35分すぎまでは集中力を保った。アディショナルタイム1分にビルドアップ途中でボールを奪われ、栃木ゴール前に運ばれたところでディフェンダーが体を張ったが、一瞬のところで先制点を奪われた。
  - ・ 失点后、悔しさを見せたが、高校生の試合で見られるような円陣を組み、集中を仕直した。TRMの矢板SCU-15戦では、失点后にガクッと来て連続失点してしまう場面が、何度もあったので、これも練習させた。
- 前半は0-1で折り返した。

(8) ハーフタイム

- ・ 「失点はしたが、やるべきことを全員がやっている。」 「ゲームプラン通りできている。」 「ロスコアで折り返せた。ここからが勝負。」 「後半飲水タイム向かえても0-1の時は、1(GK)-5-4-1から1-4-4-2にする」 「ラスト10分切っても0-1の場合、3-4-3」にする。ことを伝えた。
- (この形は前々日の練習及び数回のミーティング内でも確認していた)
- ・ 頭をリセットさせて、士気を高めて送り出した。

(9) 後半の戦い

戦い方は変えず、選手も前半同様の守備の集中力を保った。  
後半12分すぎにフォワード同士の選手交代を行った。

(10) 後半中盤戦

選手の配置を少し変え、1(GK)-5-4-1から1(GK)-4-4-2にした。

(11) 後半ラスト

センターバックの富永を前線に上げ、1(GK)-3-4-3のにした。  
最後まで、東京ゴールを目指したが、決定的な場面までは行けず、結果0-1で敗退した。  
敗退したものの、東京相手によく食らいついて、最後まであきらめない戦いはできた。

○キックオフ前の写真撮影



○試合前ウォームアップ



○試合後の選手集合写真



**3 成果**

(1) 活動回数（選考会1回、練習会9回、トレーニングマッチ5回）の増加による効果

- ・月1回の練習会とトレーニングマッチにより、スタッフはじめ、選手同士が選手の特徴やチームのできることを、やるべきことが明確になった。

○トレーニングマッチ前のウォームアップ



○トレーニングマッチ前ベンチ内ミーティングの状況



○トレーニングマッチ後選手ミーティング



- ・関東ブロック1週間前には、TRM, 練習会やミーティングの回数をこなし（8月15日(日)トレーニングマッチ（対矢板SCU-15）、17日(火)練習会、19日(木)練習会、20日(金)前日練習）、戦術面の確認、これまで取り組んできたことのおさらいや相手の特徴想定からゲームプラン戦い方意志統一を図ることができた。
- ・8月19日(木)、20日(金)には、試合会場である「緑新スタジアムYAITA」で練習を行い、会場の雰囲気や芝の長さやフィーリングなども確認することができた。（芝が長めであったことも確認できた。）

○緑新スタジアムYAITAのトレーニング風景



○8月19日(木)選手集合写真



○8月20日(金)選手集合写真



- (2) TRM(トレーニングマッチ)のマッチメイクにより、関東ブロック大会1回戦の対戦相手であった東京と同等又はそれ以上の試合経験を積むことができた。
- ・男子チーム(宇都宮商業高校、烏山高校、矢板SCU-15)と試合を行うことにより、男子のスピード感やプレッシャーに慣れることができた。最初はスピードやコンタクトの激しさに戸惑うこともあったが、特に2週間前に矢板SCU-15と2回試合行うあたりから慣れが見られ、5人のディフェンダーと4人のミッドフィルダーの守備ブロックも機能できるようになった。
  - ・WEリーグ所属の三菱浦和レッズレディースと試合を行い、国内トップのレベル感を感じることができた。結果は0-15(35分×3本)の大敗であったが、選手の振り返りからは、このレベルを感じられて意識が変わったなどのポジティブな意見・感想が多かった。

○三菱重工浦和レッズレディース戦後の挨拶



○矢板SCU-15(男子)の試合前のGKアップ



(3) 技術・戦術的成果(課題)

○守備の成果

- ・技術的などころでは、毎トレーニングにおいて、スライディングの練習を行った。初めは、上手く体を倒せなかった選手も練習をやるにつれ、スムーズにスライディングできるようになった。
- ・戦術的などころでは、1(GK) - 5 - 4 - 1システムでの守備ブロックを形成し、ディフェンディングサード及びゴール前で粘り強く対応する、戦うということをチーム戦術として採用した。トレーニングマッチの三菱重工浦和レッズレディース戦から採用し、最初はポジショング、連携面で戸惑いが見られたが、トレーニング、男子とのトレーニングマッチを重ねて、簡単には失点しない形を作ることができた。結果、東京相手に1失点に抑えることができた。

○攻撃の成果

ビルドアップ時の優先順位を相手DFの背後にし、3DFから相手DFラインの背後への配球を意識させた。前線やサイドアタッカーの動きもそこを狙いとするを共有した。東京戦で回数は少なかったが、特に立ち上がりで選手たちは迷いなくプレーできた。

(技術・戦術的課題)

東京戦で、奪ってから1STプレーでパスが通らなかつたり、失つたりする場面が多く、び相手の攻撃になってしまう場面もあった。ここでパスが通ればビックチャンスになる場面もあり、ポゼッションなりビルドアップなり、プレッシャーのある中で「切り替え」を意識させるトレーニングが必要だった。(ただし、トレーニングの重きは守備戦術の構築だったので、この部分がウェイトとしては、少なくなってしまうこともある。)

(4) 20歳前後の選手(社会人・大学生・高校3年2年)の選手の発掘及びその選手達の経験の場になった。(社会人チーム7名、高校生4名)

この選手達を継続的に強化していけば、3年後の成年女子の部が行われる国体関東ブロック大会につなげられると考える。

ちなみに、今回の関東ブロック大会参加チームの平均年齢であるが、一番高かったのは、栃木の20.8歳だった。ついで東京20.4歳。どの都県も20歳前後、関東を突破したの東京、群馬(平均

20.2歳)、山梨(19.4歳)は、どこも有力な大学チームがあり、東京はプラス、要となるポジションに有力社会人チームの選手を配した。

栃木は有力な大学チームがなく、県内の有力な社会人チームも少ないので、選抜チームでの「継続的強化」が今後も必要と考える。

(5) 練習会やトレーニングマッチにおけるリアンビレッジ矢板（とちぎフットボールセンター）の効果的活用

- ・月曜日の練習会やTRMにおいて、効果的に活用することができた。何名か県南の選手がおり、その選手には遠方での活動になってしまったが、選手振り返りでは、良い施設で活動できた旨の感想があった。ボールや作戦版も管理させてもらい、クラブハウス内の更衣室、会議室も使用することができ、良い活動ができた。
- ・試合前日においては、クラブハウス内会議室で夕食をとり、その後、ホワイトボードや作戦版、模造紙を用いて前日ミーティングを行った。このことで、選手の動きを管理でき、また共通理解を深めることができた。

○試合前日の夕食後のミーティング  
リアンビレッジ矢板（とちぎフットボールセンター）クラブハウスにて



4 課題

(1) マネジメント面

①各所属チームの監督への連絡及び調整（選手派遣・トレーニングマッチや練習会の日程）

- ・今回の練習会は、トレセンマッチデーに合わせて、トレーニングマッチ及び練習会を行った。ただし、関東ブロック大会1月前の夏の強化練習会は、皇后杯の予選もあり、選手派遣や日程調整が難航したところもあった。（選手は派遣していただいたので、活動はできた。）
- ・県外遠征も行う計画ではいたが、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった。

②ラージグループ

今回ラージグループを編成したことにより、大人数でのトレーニングができた。

6月を過ぎたあたりから、辞退者が増えた。理由は所属チームを優先したいことや職場や学校の関係などがあった。

登録16名を発表した後も、22名以上を維持し試合形式のトレーニングを行いたかったが、チーム事情によりバックアップ選手2名を含めた18名でのトレーニングになり、トレーニングプランの修正を要した。

③マッチメイク

今回WEリーグの三菱重工浦和レッズレディースと試合を行うことができた。8月には再度WEリーグ所属の別のチームや栃木選抜とほぼ同年齢やカテゴリーの関東の大学女子チームともに試合を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響投で中止になった。

この2チームと試合ができれば、女子のレベル感でチームをもういち段階進められたと考える。

(2) スタッフの女子指導経験不足

監督の稔の要請でスタッフになっていただいたが、普段から女子の指導をしているコーチばかりでないので、試行錯誤しながらの部分もあった。（稔も含めて）

また、県内で女性指導者が不足しており、女性指導者を含め、女子にかかわる指導者をいか増やすかも課題である。

## 5 終わりに

三重国体出場を目指し、3月21日の選考会から活動をスタートさせ、月1回の練習会及びトレーニングマッチを行うペースで15回の活動を行った。

今回、勝つことはできなかったが、東京相手に0-1とロースコアでの試合をすることができた。同時に活動回数を増やし、共通理解や意思疎通を図れば十分戦えるという手応えも得ることができた。

選手・スタッフには、仕事や学校があり、自チームでの活動がある中で、これだけの回数の練習会・トレーニングマッチに参加し、関東ブロックを戦ってくれたことに感謝申し上げたい。

また、選手を派遣していただいた各チームの監督・スタッフに感謝申し上げるとともに、コロナ禍の難しい状況の中、大会開催の準備、運営をしてくださった県協会の皆様、大会当日朝早くから準備や運営をしていただいた女子連盟、関係皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## B級指導者講習会栃木FAコースを開催して

指導者養成部 チーフインストラクター  
榎 剛

2020年度でB級指導者講習会栃木FAコース（以下B級講習会栃木FAコース）は、3年を数えた。2020年度は、栃木県内のC級ライセンス保持者の15名の受講生が参加して行われた。

内容は以下のとおりだった。

- 1 期間 2020年7月～12月  
前期6日間 後期6日間
- 2 会場 とちぎフットボールセンター  
AS栃木グラウンド
- 3 目的 C級からさらにレベルアップを図ろうとする指導者のための講習会  
長期一貫指導の中でユース年代（U-16）を中心に、サッカーの仕組みの理解を深める。  
(全体像・原理原則)
- 4 内容 講義及び実技・指導実践
- 5 カリキュラム

### (1) 講義

#### 【前期】

- ① ガイダンス
- ② フィジカル
- ③ 指導実践ガイダンス
- ④ プランニング（グループワーク）
- ⑤ プレーの分析
- ⑥ コーチング法Ⅰ（プランニング）
- ⑦ コーチング法Ⅱ（コーチング）
- ⑧ コミュニケーションスキル
- ⑨ プレーの原則

## 【後期】

- ① 分析
- ② GK
- ③ 審判
- ④ コーチの役割
- ⑤ セットプレー
- ⑥ 技術・戦術的課題
- ⑦ 暴力根絶

## (2) 実技

## 【前期】

- ① フィジカル+ゲーム
- ② ポゼッション (パス&コントロール、 サポート)
- ③ 守備① (チャレンジ&カバー)
- ④ 前線の崩し
- ⑤ フィニッシュ

## 【後期】

- ① 守備② (スライド)
- ② ビルドアップ
- ③ クロスの攻撃
- ④ クロスの守備
- ⑤ GK
- ⑥ セットプレー

## (3) 前期課題

## 【前期】

- ① 指導実践のプランニング
- ② ポゼッション
- ③ 守備の基本(チャレンジ&カバー)
- ④ 前線の崩し
- ⑤ フィニッシュ ※LogBookか各自の書式で

## 【後期】

- ① 指導指針からのレポート
- ② ロシアW杯日本戦からのレポート

## (4) 共通科目

- ① スポーツ医学
- ② スポーツ心理学
- ③ スポーツの社会科学
- ④ トレーニング科学

## 6 2020年度B級講習会栃木FAコース受講者の振り返り

(1) 「今回、B級指導者講習会栃木FAコースに参加して、学んだこと・得たことを今後どのように生かそうと考えますか。(今後の展望、選手・チームへの還元、ライセンスアップの意欲等)」

- ・自分がライセンスアップをするだけの技能があるかは微妙ですが、もっと知りたい、もっと上手に指導したいという気持ちは持っています。B級講習会で学んだことが指導の基礎になっていくと思います。

サッカーを一(イチ)から深く学んでいく良い機会になりました。

- ・この講習会で学んだことをしっかり身につけていきたい。目の前の選手たちへ還元できることが

多くあったので、自分の中で整理して伝えたりしたい。

A級や他のライセンスにも興味や意欲を持った。

- ・まずは自チームの選手に対して、チームの活動をお休みしながら受講させてもらったので、還元していきたい。また、地区トレセンにも関わっている所以地区の選手に対しても、少しでも良い刺激を与えられるようにしていきたい。

インストラクターの励ましもあり、同期の皆と楽しく助け合いながらできました。

- ・今後、自チームの選手への還元を中心に、トレセン活動なども行う際に、今回の講習会で学んだことをアウトプットできるようにしていきたいです。

今回の講習を受けて、サッカーの奥深さと難しさを感じました。今後、指導する際のヒントとなることを学ぶことができたので、今回学んだことを次の指導現場で生かしていきたい。

## 7 今年までの3年間のB級講習会栃木FAコース取組

- (1) 受講者 2018年度19名  
2019年度14名  
2020年度15名  
計48名

この3年間で48名のB級指導者を養成したことになる。

2017年度までは、JFAコースのみの開催で、栃木FAからは最大6、7名の受講であったので、栃木FAコースを開設し3年間開催できたのは、大きな成果であったと考える。

また、このことは、6のB級講習会栃木FAコース受講者の振り返りからも見て取れる。

栃木県内の指導者のみの参加により、栃木FAの良さや課題も共有できるメリットもあった。

今後、B級講習会栃木FAコース開催にするにあたっての課題をクリアし、2021年度以降も開催できるように努めていきたい。

なお、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受講者9名とここ数年より少ない人数であるが、6月から前期を開催している。後期は10月31日(土)から開催している。

## 8 今後に向けて

### (1) B級スタンダード計画

JFAでは、2030年までに「育成年代30名の選手に1名のB級指導者」を養成することを目指している。

栃木県は2030年までにB級指導者の養成人数360名と試算されており、栃木FA指導者養成部としても、それを長期の目標としている。

栃木県はB級指導者2021年現在で145名であり、あと215名増やす必要がある。2022年からの9年間で年間24名の受講生を集める試算になるが、この目標に届くよう周知活動に努めるとともに、今後も安定的に開催できるよう努めていきたい。

### (2) B級指導者ライセンス取得のメリット

① B級ライセンスを取得することは、指導者の資質向上につながり、良い選手・良いチームの育成につながる。

② 「暴力根絶」「コミュニケーションスキル」などを学ぶことにより、選手に対してより良い指導ができるようになる。

(栃木県内ではまだまだ高圧的な指導や一方的な指導が目立つ)

③ 指導者自身を守ることになる。

指導者ライセンスを持つことは、指導者として必要なことを学ぶことであると同時に、ライセンスを持っていることは、指導者自身を守ることにもなる。

④ 社会人の選手が講習会を受講することで、サッカーの全体像や原理原則の理解が深まり、選手としてのプレーに幅が出る。

B級講習会受講及びライセンス取得のメリットを生かし、JFAのB級スタンダード 計画に沿って、進めていきたい。

(1) 学び続ける指導者仲間を増やす。

3年間で48名のB級指導者を養成することができた。

しかしながら、ライセンス取得することがゴールになってしまえば、指導者としての伸びは止まってしまい、良い指導はできなくなってしまうと考える。

指導者養成部では、C級などのリフレッシュ研修会を開催している。また、2020年から「B級リフレッシュ研修会」を開設した。ぜひ、B級指導者の方は受講していただきたい。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない」

この言葉を私自身も肝に銘じて、今後もB級講習会栃木FAコース及びB級リフレッシュ講習会を開催していきたい。

○2018年度開催の様子



○2019年度開催の様子



○2020年度開催の様子



## 審判委員会

宇都宮社会人サッカー  
審判委員会について

宇都宮社会人サッカー審判委員会  
副委員長 国井駿

私たち宇都宮社会人サッカー審判委員会は審判員21名が在籍しています。現在はコロナ禍の影響で普段の生活をはじめ、審判活動が制限されており、なかなかコロナ禍以前のような活動はできていない中ではありますが、私たちの活動などを紹介させていただきます。

在籍の審判員は1級・女子1級から3級審判員まで、年齢や職業もバラバラです。親と子くらいの感覚の方もいることでしょう。また、審判員の中にはインストラクターとして活躍している方もいます。審判員に対する指導はもちろん、日頃抱えている悩みの相談も受けていただいています。私自身、宇都宮社会人サッカー審判委員会に在籍して約10年ですが、審判員・社会人として成長させてもらいました。

研修会は年間で5回開催しています。審判員としての勉強会や各自の活動報告、または悩み事（審判活動や日常生活に関する事）の相談なども行っています。勉強会のみならず、コンディショニング確認会として皆で汗を流す場もあります。審判員は走って、近くで見て、判定し、ゲームをコントロールする役割を担っています。ですから選手と同じように普段からトレーニングをし、試合に向けて体のコンディショニングを整えなくてはなりません。今年度はコンディショニングを確認することと、会員の懇親を図る意味で、短い時間の中でしたがフットサルを行いました。トレーニングにもなり、普段ボールを蹴る機会がない私にとっては素晴らしい時間です。

我々は審判員ですので、もちろん実技研修も行います。主に「宇都宮市民スポーツ大会」「下野杯争奪宇都宮社会人サッカー大会」を実際に担当し、経験を積んでいます。試合ごとにインストラクターからの指導や仲間の審判員からのアドバイスを受けられます。特に主審の経験が少なかったり、なかなかインストラクターから指導を受ける場が少ない審判員には絶好の機会です。3級審判員の方が主審を担当し、副審が1級や2級の方が担当するといったこともあります。このような事は普段あまり考えられないことではないでしょうか。また、インストラク

ターとしても実際に指導をする良い研修の場でもありますので、大会の中で審判員・インストラクター双方にとってスキルアップができる環境です。コロナ禍の影響で昨年度は「宇都宮市民スポーツ大会」及び「下野杯争奪宇都宮社会人サッカー大会」が共に中止となりました。今年度は「宇都宮市民スポーツ大会」が中止となっています。1月の「下野杯争奪宇都宮社会人サッカー大会」が開催されるかは未定ですが、もし開催されるならば参加する全ての方が安全にサッカーを楽しめる大会となるよう、審判員として役割を果たしていきたいと考えています。

審判員にかかわりが少ない方々にとって審判員は批判されるイメージが強く、「やりたくない」と思っている方は多いことでしょう。しかしながら私たちは「審判をすることが好き」な集団であり、何より「サッカーが大好きな」集団です。これからも私たち宇都宮社会人サッカー審判委員会での活動を通してサッカー界に貢献し、審判活動を楽しみたいと考えています。



最前列右から2番目が筆者。



フットサル後の1枚。前列右から3番目が筆者。

## コロナ禍における 大会開催の難しさ ～全国高等学校総合体育大会 サッカー競技に参加して～

サッカー2級審判員 佐藤佑樹

2級審判員の佐藤佑樹（宇都宮大学3年）です。2021年8月13日～22日に、私の地元である福井県で開催された全国高等学校総合体育大会サッカー競技に審判員として参加しました（筆者の参加は、8月13日～19日）。コロナ禍、さらには真夏にも関わらず雨が続き、コンディションが良くない中での全国大会の開催となり、大変な部分も多々ありましたが、事前研修会から、大会の審判割当、振り返りまで含め、非常に有意義で自身の審判活動に対する視野が広がる経験となりました。

冒頭で私の地元は福井県と述べましたが、私は2019年春に宇都宮大学農学部への進学に伴い、福井県から栃木県に来ました。私の専門競技はバドミントンであり、サッカーの競技経験が全くありません。サッカーを観戦することが好きで、何かサッカーに関わりたいたいと思っていた時に、「審判なら自分にもできるかも」と思い、高校2年生の時にサッカーの審判を始め、4級審判員資格を取得しました。高校3年生の時に福井県で3級審判員に昇級させてもらいましたが、サッカーの競技経験のない私が栃木県で上級を目指して審判活動ができるか不安な部分がたくさんありました。最初にお会いした審判委員会の館岡氏をはじめ、たくさんの方々が温かく迎え入れて下さったおかげでその不安はすぐになくなりました。また、栃木県では毎月1回の審判トレセンの開催や試合時のインストラクターによる審判指導等、審判員の資質向上のための取り組みが非常に充実しており、多くの審判仲間を作ることができたことも、不安がなくなった大きな要因だと思っています。そして、今春には2級昇級審査に推薦していただき、無事2級昇級試験に合格し、2級審判員になることができました。

自己紹介が長くなりましたが、ここからは、本大会の参加報告を行いたいと思います。

まず、本大会では大会前の8月上旬に4回にわたってzoomを用いたオンラインによる事前研修会が行われました。大会概要の説明や競技規則テストはもちろん、映像を用いたグループディスカッションを行い、大会に向けて審判員同士の士気を高めま

した。新型コロナウイルス感染症の拡大で普及したオンライン会議ですが、サッカーの研修会においても非常に良いツールとして利用できると思います。グループディスカッションの主なテーマは、「ハンド」「ヘディングの競り合い」「オフサイド」「ホールディング」「FKマネジメント」の5つでした。グループで全員が判定するためのポイント（考慮事項）やより良い判定をするために心掛けることを意見したうえで、JFAから派遣されている1級審判員や1級インストラクターの方からコメントを頂きました。どの意見に対しても否定的なコメントはされることなく、様々な見方ができることを理解できました。その中で、自分に合った方法でサッカーの審判の基本を踏まえながら、選手や観客に対してより説得力のある判定ができるようにすることが大切だと感じました。

続いて、試合についてです。私は男子の1回戦から準々決勝まで計4試合を担当しました。

- ・男子1回戦：8月14日(土)12:00kick-off  
実践学園（東京）3-0 高知中央（高知）  
副審2担当
- ・男子2回戦：8月16日(月)11:30kick-off  
青森山田（青森）8-0 初芝橋本（和歌山）  
副審2担当
- ・男子3回戦：8月18日(水)9:15kick-off  
星稜（石川）3-0 徳島市立（徳島）  
副審2担当
- ・男子準々決勝：8月19日(木)11:30kick-off  
神村学園（鹿児島）1-3 米子北（鳥取）  
4th担当

私が担当した試合は、点差が開いてしまうことが多かったですが、全国大会の舞台であり、両チームとも最後まで諦めずボールを追いかけ、戦う姿が印象的でした。私は副審として、主審が気持ちよく笛を吹けるように主審の気持ちになって旗でサポートすることを心がけました。栃木県は「シグナルの美しさ日本一」を目指し、審判員のシグナルについてはたくさん指導されてきたので、その成果を全国大会でも発揮できるように意識しました。試合後の振り返りでインストラクターの方から、「シグナルが大きくて綺麗だった」とのコメントを頂けたのは良かったです。また、副審の基本であるサイドステップを有効活用してフィールドに対して正対することやしっかりとスプリントを使うことなどもできたと考えています。

大会期間中は、自分の試合だけでなく他の審判員

## 全国中学校サッカー大会に参加して

栃木県中体連強化審判員  
菊地俊貴 櫻井和洋 高橋義幸

の試合を観戦する機会が多々ありました。本大会には全国各地から1級審判員、各地域で1級審判員を目指す2級審判員、そして高体連の2級審判員など様々なバックグラウンドを持った審判員が集まりました。学べたことはたくさんあるのですが、ここでは私が特に印象に残っている2点を紹介したいと思います。1点目は、「対角線式審判法」の重要性です。審判資格を取得したことがある人は必ず聞いたことがある言葉だと思いますが、この基本は、審判のカテゴリーや試合のレベルが上がっても、変わらないと思いました。この基本に沿って主審は動くことでより良い位置でより良い判定、すなわち説得力のある判定が生み出されているのです。2点目は、「マネジメント」です。サッカーではフェアプレーを心がけていても、勝利を目指す中で、ファウルは当然起こるものです。そのファウルの意図を見極めて適切な判断・処置をするのが審判員の役目でもあります。選手やベンチとのコミュニケーションの取り方やカードの出し方など参考になる部分がたくさんありました。

最後に、サッカーの審判は笛を吹くタイミング、注意を与えるタイミング、主審をサポートするタイミングなど様々な「タイミング」が重要視されますが、今回の全国大会は別の意味で様々な「タイミング」が私にとってプラスに働いたと言えます。①全国大会に参加するために最低限必要な2級審判員資格を今春取得できたこと、②全国高校総体が私の地元福井県で開催されたこと、③関西地域から来た派遣審判員に新型コロナウイルス陽性者が出て審判員が足りなくなったため、福井県からの要請で3回戦と準々決勝の審判を担当できたことなど様々です。

来年にはここ栃木県で「いちご一会とちぎ国体」が開催されます。今回の全国大会での経験をとちぎ国体で生かせるようにこれからも頑張っていきます。今後とも、宜しくお願い致します。



一番左が筆者。



(富士北麓公園にて。左から菊地、櫻井、高橋)

2021年8月18日(木)から20日(日)まで、山梨県にて開催された、全国中学校サッカー大会に、栃木県から推薦をいただき、審判員として参加してきました。

昨年度は、栃木県で関東中学校サッカー大会が開催される予定でしたが、感染症拡大防止のため中止となり、それに伴い全国中学校サッカー大会も中止となりました。

今年度は、感染症拡大がなかなか収まらない中ではありましたが、関東中学校サッカー大会が千葉県で、そして全国中学校サッカー大会は山梨県で、感染症対策を徹底して開催されました。



(QRコードと感染症対策呼びかけ資料)

全国大会においては、関係者は大会前2週間の体温測定を行い、当日も会場入り口で検温が実施されます。観客も会場入り口で健康チェックシートを提出するか、写真にあるQRコードからチェックリストにアクセスし、そこに必要な情報を入力した上で会場に入る、という方式がとられていました。

全国中学校サッカー大会は、女子1級審判員の研修と、女子1級候補審判員の昇級試験として割当が行われます。私たちは副審もしくは第四審として割当を受け、活動しました。



審判員として学びがあったことはもちろんですが、やはり、コロナ禍において、大会を安全に開催するためにどのような取り組みがなされているのか、そちらも非常に参考になる3日間でした。県内においても、安心してサッカーができる環境作りにつとめなければという気持ちを新たにしました。

最後になりましたが、山梨県協会や中体連の先生方、そして地元中学校サッカー部員の皆さんのご尽力で私たちも審判活動ができたことに感謝いたします。ありがとうございました。

## 2級審判員として

サッカー2級審判員 荒木 明

私がサッカー4級審判員の資格を取得したのは2017年2月です。きっかけは当時小学4年生の長男が突然サッカーを始めたことでした。お世話になるクラブチームが数年間活動を停止していたことから、選手の在籍は5名、クラブにはサッカー関係者がおりませんでした。そして、右も左も分からない中、子供達にサッカーの試合を経験させてあげたいという気持ちで指導者と審判資格を取得しました。サッカー未経験の私は頭で理解したことを子供達に伝えることしか出来ず、正直、正しいことを指導しているのか半信半疑という日々が続きました。また、試合になると子供たちへ「走れ！走れ！」と連呼する。しかし、ある時、自問自答しました。「私は走れるのか？」「私はプレーを見せることができるのか？」当然、結果は両方とも出来ません。

それから、まずは「サッカーを知りたい」「子供達と一緒に走りたい」「走るには審判がベスト」と思い、進んで審判をやるようになりました。審判をやってみるとベンチでは聞こえない選手間の会話、フィールド上でしか共有できない選手とのコミュニケーションにだんだん魅力を感じていきました。そして、なにより審判が難しいことです。審判をやるまでは「何でファウル取れないの？」「今のはハン

ドだよ！」と自分勝手なことを思っていました、いざ自分がやってみると全く対応出来ません。その後2年間は毎週末、息子の試合がある度に「審判＝反省」を繰り返しました。そんな中、チームの所属地区が同じ宇河少年サッカー審判委員会の杉山委員長から、審判委員会へのお誘いと3級審判員へ推薦のお声がけを頂きました。そして、2019年12月に3級審判員の資格を取得しました。

3級取得後も毎週末少年サッカーの試合で審判活動をしておりましたが、ある時、同じ勤務先の館岡氏に出会い、更に審判の「楽しさ」「難しさ」「奥深さ」を気付かせていただきました。杉山委員長、館岡氏との出会いがなければこんなに審判の世界に夢中になることはなかったと思います。本当にありがとうございます。

2020年1月から栃木県審判トレセンに参加させていただき、「プラティカルトレーニング」「映像分析」「競技規則」などを定期的に学ぶことにより新しい気づきや審判員としての自覚が芽生えてきました。そして少しずつ大学生や社会人の試合を担当させていただけるようになりました。当初は「フィールドの大きさ」「スピード」「プレーの激しさ」に戸惑いましたが、インストラクターや上級審判員の方々からのご指導により徐々に戸惑いが解消されてきました。しかし、「審判＝反省」の繰り返す日々は変わりません。

2021年2月栃木県審判委員会から2級昇級推薦のお話をいただきました。私は正直「時期尚早」と思いましたが、「私の名前を出していただいた指導者の皆様への恩返し」「人生の中で沢山チャンスがある訳ではない」という思いからチャレンジすることを決意しました。同年3月推薦見極め試合を普段共に切磋琢磨する審判仲間と審判チームを組ませていただき、沢山のサポートも受けて合格することができました。そして、同年4月下野市大松山運動公園陸上競技場にて開催されました2級昇級審査を受験しました。試験は競技規則テストと体力テストがありましたが、事前にトレーニングと競技規則の勉強を行いなんとか合格することができました。この場を借りて、栃木県審判委員会、インストラクターの皆様、審判仲間の皆様、試合を担当させていただいたチームの皆様、心から感謝申し上げます。

今後も競技規則の勉強やトレーニングに励み「公平・公正」を心がけ、サッカーの主役である選手からリスペクトされるような「人間性を向上させる」ことを精進してまいります。そして、審判員として栃木県のサッカーに微力ながら貢献していけるように頑張りたいと思います。

最後に、現在、私は次男が所属している少年チーム（長男は卒業）の代表も務めさせていただいております。指導の方はサッカー経験者のコーチに任せられておりますが、コーチの仲間は審判も大好きです。子供達の前で大人がなんでも真剣に取り組む姿勢を見せることは大切だと思います。最近ではお母さん審判も立派に頑張っております。また、練習試合は審判の取り合いになるほど人気があります。私はもっともっとお父さんお母さん審判員の仲間を増やすことも審判活動の楽しみのひとつです。

審判に少しでも興味をお持ちの方がおりましたら、お気軽にお声かけください。栃木県審判委員会は資格の級に関係なく審判活動を支援する体勢も充実しております。一緒に審判活動を楽しめたら幸いです。よろしくお願いいたします。



写真左が筆者。右が杉山委員長。



写真1番左が筆者。左から3番目が舘岡氏。

苦戦した経験を活かし、2回目の審査では、競技規則に関して、細かいところまで頭に叩き込んで臨みました。その結果、問題内容が基本的なところ中心であったということもありましたが、全ての問題にスムーズに回答することができました。

体力審査は、40m走（6.9秒以内×6本）及び、インターバル走（75mを20秒走り、25mを25秒で歩く）×32本という内容でした。

**【今後の目標など】**

審判員として日本サッカーの発展に貢献する、これが私の大きな目標です。これは審判活動を始めてからずっと変わっていません。私は、サッカー日本代表がW杯やオリンピックなどで優勝するために審判活動を行っています。ファウルの基準をどこに設けるのか、アドバンテージを積極的に適応すべき試合なのかなど、様々な角度から日本サッカーのレベルを向上させていくことが可能だと思っています。

1試合1試合を大切に、選手の皆さんが成長できた試合だったなと感じられるような、レフェリングを毎試合したいです。

試合中や試合後に「判定場所が悪かったな」「間違えてしまった、すみません」と思う判定をしてしまうときも正直あります。しかし、そのような場面でも選手やチームスタッフの皆さんの理解ある行動、声掛けのおかげで、その後の試合や次の試合のレフェリングに進むことができます。とても感謝しています、ありがとうございます。ミス無くするために90分間最適なポジションでプレーを監視し続けるということも、今後の目標の1つです。「よく見てたでしょ」と言えるような、説得力のあるポジショニングを保ち続けたいと強く思っています。

最後になりますが、私に関わってくださっている全ての皆様。いつもありがとうございます。感謝の気持ちを持ちながら日々の審判活動に取り組みます。そして、私生活から気を引き締めて生活して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



**サッカー2級審判員になって**

サッカー2級審判員 伊藤慶太

**【2級昇級審査について】**

2021年4月25日に行われたサッカー2級審判員昇級審査に合格し、2級審判員になることができました。2020年の初めての昇級審査では不合格であったため、2回目の審査での合格となりました。

## フットサル審判員とプレーヤーとして

フットサル2級審判員 中田悠人

この度、フットサル2級審判員に昇級させていただいた中田です。私はフットサル審判員だけでなく、プレーヤーとしても活動しています。今後も審判とプレーヤーとしてスキルを磨き、栃木県フットサル連盟をサポートし、フットサルの楽しさを広められるよう努めて参ります。審判としては「両チームが実力を出し切れる試合コントロール」を目指し、プレーヤーとしては「若い世代にプレーする楽しさを実感してもらるように活動をしたい」と考えています。



私は大学からフットサルを始め、先輩と大学公認のフットサルチームを立ち上げました。新たに参入する各リーグの参加条件に審判員が必要であり、チーム貢献として審判活動を始めました。審判活動の始めは、プレーヤーの時間を奪う存在でしかありませんでしたが、活動を続けるにつれてフットサル競技規則の理解が深まり、学んだことを大学チームに還元できていることに気がつきました。審判活動で気づいたことを踏まえてルールを教えることで理解が深まり、不要な反則や判定に対する不満も減り、チームの雰囲気悪化がなくなり、チームが力を出し切れる環境作りにも繋がりました。

審判としてのやりがいが見つかった私は、「両チームのプレーヤーが不満なく全力でプレーできる環境を作る」ことを目標に、技術を磨いてきました。自分がプレーヤーの時どんなことを考えるかなど、プレーヤー目線も審判員として非常に役立ちました。しばらくして3級審判員に昇級させていただき、「反則の未然防止」や「プレーヤーが納得する説明」に努めてきました。就職の関係で大学のあった鳥取県から関東地方に引っ越した後も、中国地方で学んだ審判としての技術を活かしてきました。

他の審判員を見てきて学んだことや自分自身のできていないことを踏まえて、2級審判員として努力したいことは、「両チームが納得いく試合コントロール」と「次世代に伝える能力向上」です。試合コントロールについては、判定に対して自信を持ち、疑問に思う人が入ればきちんと説明できる能力を向上させることです。判定に対しての不満がなく全力でプレーすることで、各チームが納得のいく試合を作りたいと思います。また、次世代に伝える能力は、新しく審判資格を取ろうとする人の育成で

す。今まで他の審判員から教えていただいた審判としての目線や競技規則の解釈など、自分の成長に繋がったことを次世代の審判員に伝えたいと思います。フットサルの理解を深めることで、審判員だけでなくプレーヤーとしてのフットサルの楽しさが広まり、フットサルの普及や地域活動の貢献にも繋がると考えています。

最後になりましたが、このような機会を設けてくださった栃木県フットサル連盟の方々、鳥取県フットサル連盟の方々含め私の審判活動に携わってくださった審判関係者に心より感謝申し上げます。今後は、フットサル審判員およびプレーヤーとして栃木県フットサル連盟をサポートしていきたいと思いません。よろしくお願いいたします。

## フットサル審判員育成コースからの 3級審判員昇級審査会へ

フットサル・ビーチサッカー一部  
柳田 比左志

この度、2021年5月に5年ぶりとなるフットサル3級審判昇格審査会を実施し、受講者1名の合格をトピックスとしてご報告いたします。

受講者が1名であったことは審判大国である栃木県では耳を疑うような数値だと思われ方が多いと思われます。フットサル審判部としても5年間



の間、何もしなかったわけではなく派遣審判員を促す広告物を作成し各講習会にて配布し派遣審判員の増員を図り、そこから3級昇格へ繋げる策や栃木県フットサルリーグにおいて帯同審判員への3級昇格審査会の声掛けを地道に行うなど色々行っていました。なかなか成果が出ない状況でした。

新たな策として2021年1月よりフットサル審判員育成コースを開設し、なかなか理解し辛いフットサル特有の競技規則を詳細に座学研修・実技研修に分けて競技規則の知識向上やフットサル審判員としての立ち振る舞いを指導し3級昇格審査会に繋げ、派遣審判員の増員を目指しております。

2021年度は1名のフットサル3級審判昇格で終わりそうですが、フットサル審判員の増員を図る活動を地道に行うことによりフットサル3級審判昇格審査会の毎年開催を目指し、その中から関東へ飛躍するフットサル2級審判員の誕生を目標にしています。

## 「肉離れ」に関するはなし

医事委員長 飯島裕生

### <肉離れとは？(筋挫傷ともいわれる)>

肉離れは、最も代表的なスポーツ外傷の一つであるが、その診断や治療、スポーツ復帰に関して判断が難しいことがある。特に現場においては、その予防と再発を無くすことが重要な課題となる。サッカーに関しては、その発生部位として、大腿二頭筋長頭(ハムストリング)、大腿四頭筋、下腿三頭筋、骨盤筋群、大腿部内転筋群などが挙げられ、骨盤筋群を含めてその9割以上が下肢に集中する。

### <肉離れの診断>

診察所見では患部の腫れ、皮下出血、皮膚の陥凹などをチェックする。圧痛の有無と範囲、患部の筋のストレッチ痛(伸展時痛)を確認する。同部位の肉離れの既往や最近の痛み、違和感の有無も問診する。

### <肉離れの画像診断>

肉離れの重症度の診断には、MRI撮影が非常に有用となる。MRI所見により、

軽症  
↓  
重症

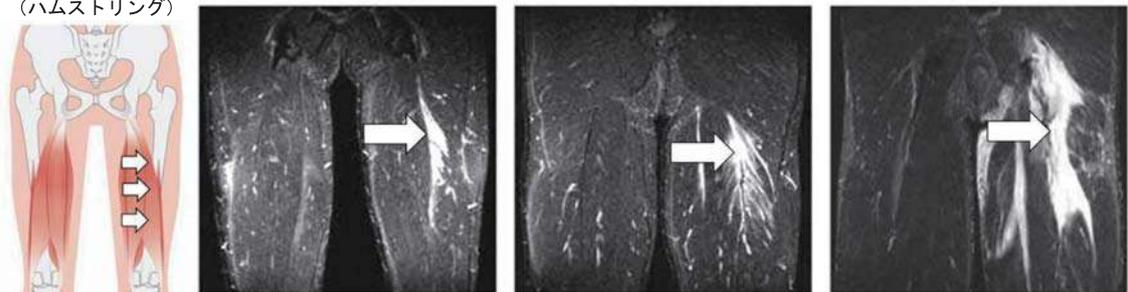
- ① I型 (筋線維部損傷)：筋肉実質の損傷
- ② II型 (腱膜部損傷)：筋肉内の腱の損傷
- ③ III型 (筋腱付着部損傷)：筋肉や腱の骨付着部での損傷

(それぞれの型で、更に1度(軽度損傷)、2度(部分断裂)、3度(完全断裂)に分類する)



大腿二頭筋の肉離れ  
(ハムストリング)

### 大腿二頭筋離れのMRI分類



I型損傷：筋線維が白くなる。 II型損傷：筋肉内の腱膜が白くなる。 III型損傷：骨付着部が白くなる。

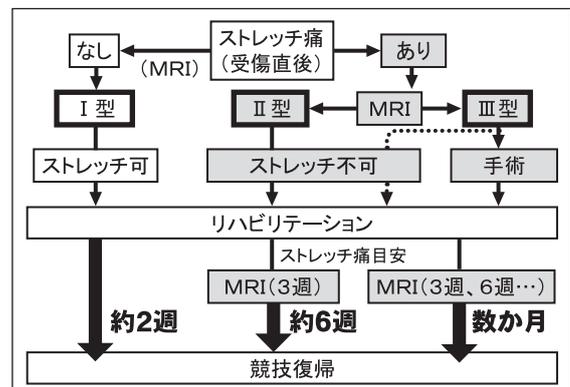
### <肉離れの治療方針>

**I型**：痛みに応じてストレッチを許可して、約2週間後に復帰を目指す。

**II型**：ストレッチは禁止してのリハビリテーションを開始、受傷後3週でMRIを再検査し、患部の修復の程度を確認する。約6週間後の復帰を目指す。

**III型**：競技レベルなどを考慮し手術療法も検討。手術を行わない場合も復帰には12週間以上を要する。

※ 最近では、筋損傷部位へPRP療法(多血小板血漿療法)の有用性も報告されています(医療保険適応外)。



☆ 肉離れに対しての重症度や競技復帰の目安にMRI撮影が最も重要とされています。MRIは放射線被爆もないため身体への害はありません。「肉離れ」に対して慎重に対応し、的確な診断と治療計画を立てることが選手にとって重要と考えます。

【参考文献】：奥脇, MB Orthop.2021

奥澤 浩

円印刷株式会社

飯山 勝一

菅俣 倫吉

## 訃報

(公社)栃木県サッカー協会名誉会長森山眞弓氏が2021年10月14日、ご逝去されました。

本県サッカーの普及、振興にご尽力いただいたご功績に対し敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

合掌

(次号で追悼記事を予定しております)



人と自然が調和した街づくり目指す

## 鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857  
宇都宮市鶴田2丁目2番10号  
TEL 028-648-6241(代)  
FAX 028-648-8318  
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー  
ミズノ株式会社

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 星野務 村上富士夫
- 印刷所 円印刷株式会社